

Note  
自然誌資料

沖縄県西表島における外来植物目録

梶田結衣<sup>1</sup>・米倉浩司<sup>2</sup>・遠山弘法<sup>3</sup>・赤井賢成<sup>4</sup>・天野正晴<sup>2</sup>・阿部篤志<sup>2</sup>  
山本武能<sup>1</sup>・設楽拓人<sup>5</sup>・齊藤由紀子<sup>6</sup>・横田昌嗣<sup>7</sup>・内貴章世<sup>1</sup>

A provisional list of alien plant species on Iriomote Island, Okinawa, Japan

Yui KAJITA<sup>1</sup>, Koji YONEKURA<sup>2</sup>, Hironori TOYAMA<sup>3</sup>, Kensei AKAI<sup>4</sup>,  
Masaharu AMANO<sup>2</sup>, Atsushi ABE<sup>2</sup>, Takuto SHITARA<sup>5</sup>, Takenori YAMAMOTO<sup>1</sup>,  
Yukiko SAITO<sup>6</sup>, Masatsugu YOKOTA<sup>7</sup> and Akiyo NAIKI<sup>1</sup>

**Abstract:** A provisional list of alien plants on Iriomote Island, Okinawa, Japan, is provided based on our field surveys from April 2016 to December 2020, previous reports, and herbaria specimens. In total, 248 alien plant species of 57 families were recorded. Among them, 59 species are the first records in Iriomote Island.

**抄録:** 2016年4月から2020年12月にかけて行った野外調査、先行研究による報告、および標本庫所蔵の標本にもとづく沖縄県西表島の外来植物目録を提供する。57科248種が確認され、このうち59種は西表島からの初報告となる。

**Key words:** conservation; exotic; flora; invasion; introduced; World Natural Heritage

沖縄県の西表島は、同県を構成する160余りの島々の中で沖縄島に次ぎ二番目に広く(約289.3 km<sup>2</sup>)、亜熱帯では他に例を見ない広大な自然林と豊かな植物多様性を有している(中村, 2012; 横田, 2016)。西表島の植物相(フロラ)は、1970年代から90年代に出版された琉球植物誌などから知ることができる(初島, 1975; 初島・天野, 1994; 島袋, 1997; Walker, 1976)。しかしながら、西表島では踏査困難な地形が多く見られ、フロラ解明のための調査は未だ十分ではない。また、当代の観光業や農業活動に伴う自然利用や開発の増大が、西表島のフロラにも大きな影響を及ぼしている可能性があり、その現状把握は急務である。琉球大学熱帯生物圏研究センターは、2017年度より「西表島フロラプロジェクト」を立ち上げ、一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター等の連携機関とともに、維管束植物相の現状解明へ向けた同島の網羅的植生調査を実施している。また、野外調査に加え、ハーバリウム調査や文献調査も行い、それら情報を統括した西表島フロラのデータベース作成を進めている。本プロジェクトによる調査研究は、少なくとも2022年度まで継続予定だが、外来植物に関しては現在までに多くの種が確認できている。より網羅的な外来植物目録の完成には本プロジェクトの完了を待つ必要があるが、外来種駆除や拡散防止対策といった自然保護における積極的行動の観点からは、早い段

※大阪市立自然史博物館業績第506号(2021年7月13日受理)

<sup>1</sup> 琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設 〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原870  
Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus, 870 Uehara, Taketomi, Okinawa 907-1541, Japan

<sup>2</sup> 一般財団法人沖縄美ら島財団 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888  
Okinawa Churashima Foundation, 888 Ishikawa, Motobu, Okinawa 905-0206, Japan

<sup>3</sup> 国立環境研究所・生物多様性領域 〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2  
Biodiversity Division, National Institute for Environmental Studies, 16-2 Onogawa, Tsukuba, Ibaraki 305-8506, Japan

<sup>4</sup> 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室 〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1奄美群島大島総合館6階  
Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University, 15-1 Naze-minatomachi, Amami, Kagoshima 894-0026, Japan

<sup>5</sup> 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 多摩森林科学園 〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81  
Tama Forest Science Garden, Forestry and Forest Products Research Institute, 1833-81 Todoricho, Hachioji, Tokyo 193-0843, Japan

<sup>6</sup> 琉球大学教育学部 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan

<sup>7</sup> 琉球大学理学部 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

Faculty of Science, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan

Corresponding author: A. Naiki (e-mail: naiki@lab.u-ryukyu.ac.jp)

階での情報提供が望ましい。そのため、暫定目録「西表島の外来植物目録（2020）」をここで提供する。

西表島は2016年に国立公園の範囲が島のほぼ全域に拡張され、2021年5月にはIUCNより世界自然遺産への記載が適当であるという勧告を受けている。外来植物の分布の現状を把握し、制御・管理していくことは、世界自然遺産としての価値を維持するためにも重要である（UNESCO et al., 2012）。生長や被覆・増殖力が大きな外来植物が在来生物の種多様性を減少させたり（小林, 2004；村中, 2005；村中・鷺谷, 2006）、送粉や種子散布など、在来植物と共生動物間の相互作用ネットワークを破壊させたりする可能性があるためである（横井ほか, 2008；桜谷, 2012；Spotswood et al., 2012；中本・伊澤, 2013；常木ほか, 2018）。また、外来植物と近縁在来植物との間に雑種が形成され、在来集団への遺伝子移入（遺伝子汚染）が起きる事例や（山下, 2002；中田・伊藤, 2003；小林, 2004；Takahashi and Hanyu, 2015）、他感作用（アレロパシー）や窒素固定能を有する外来種による環境変化の問題なども指摘される（藤井, 2006；真坂ほか, 2006；辻・日置, 2017）。とくに大陸部と比べて土地や集団サイズが小さな島嶼部においては、外来植物による自然生態系へのインパクトがより大きなものとなることに注意を要する（Carlquist, 1974；Pyšek et al., 2012）。西表島が属する沖縄県や竹富町においても、自然保護条例等により指定外来植物の選定が進められ、外来植物対策の指針が示されてきた（沖縄県, 2020b；竹富町, 2017）。このような対策実行のための効果的なロードマップ策定には、より包括的で現状を捉えた外来植物種リストが必要であろう。西表島では植物資源調査を目的とした先行研究があり（Ishimine et al., 1992；新里ほか, 1993）、17科78種にのぼる外来植物が記録された（Ishimine et al., 1992）。しかしながらこれらの調査は、一部の農地を除いた開発地域、および森林部では行われておらず、近年の外来植物の分布情報も不足している。今回の外来植物目録は、著者らによる全島の野外調査と過去の学術資料に基づき作成され、西表島に生育する外来植物としてこれまで最多となる57科248種（うち西表島からの初報告59種）を収録し、各種の島内地域ごとの最新の分布情報を提供する。

## 調査方法

「西表島の外来植物目録（2020）」は、西表島フロラプロジェクトの準備段階にあたる2016年4月から、2020年12月に至る著者らによる島内各地の野外調査の結果と、ハーバリウム調査・文献調査から得られた先行研究の情報とを集積して作成された。本稿における外来植物とは、外国原産であるか否かに限らず、県外・島外から移入された、もしくは移入の可能性が指摘されている種で、野生状態で生育している植物である。在来か外来かの主な判断においては、日本の帰化植物図鑑（清水ほか, 2001；清水, 2003；植村ほか, 2015）への掲載の有無、「YList」（米倉・梶田, 2003-）における生態情報、「琉球の植物データベース」（琉球の植物研究グループ, 2018-）の分布情報、国内帰化を含む沖縄県の外来植物に関わる文献等（中島, 1980；初島, 1980；池原, 1984；高江洲・高江洲, 1992；Takamine, 1952）を参考にした。路傍に生育する園芸由来の植物など、人の管理下から外れているか否かの判別が難しい場合は、複数年にわたって現地の状況を確認することで逸出状態を判断した。本研究の野外調査では、基本的に一種につき一点以上の証拠標本を採集し、写真記録も行った。証拠標本は、阿部、赤井、天野、米倉が採集したものは沖縄美ら島財団植物標本庫（OCF）、梶田、内貴、設楽、遠山、山本が採集したものは琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設に保管される。Ishimine et al. (1992) と新里ほか (1993) は西表島の多くの外来植物を記録したが、種同定の根拠となる標本や写真、分類形質の記載などは示していない。そのため今回の目録においては、分布の裏付けがこれらの論文のみとなる種は掲載しなかった。

野外調査の日数を標本採集日で集計すると、2016年に6日、2017年に16日、2018年に45日、2019年と2020年はそれぞれ約60日で、2018年から2019年には全ての季節で野外調査を実施した。島の周縁に位置する人里や車道・農道脇、海岸や林内へと繋がるトレイル沿いに加え、内陸部森林内にも踏査し調査を行った（図1）。標本調査は、主として京都大学総合博物館（KYO）、高知県立牧野植物園（MBK）、沖縄美ら島財団（OCF）、琉球大学理学部（RYU）および教育学部（URO）、東京大学総合研究博物館（TI）、東北大学植物園（TUS, TUSG）で行った（KYO, MBK, TIでは一部の分類群のみ）。また、鹿児島大学（KAG）と国立科学博物館（TNS）の標本データベースに掲載されている標本画像の調査も行った。

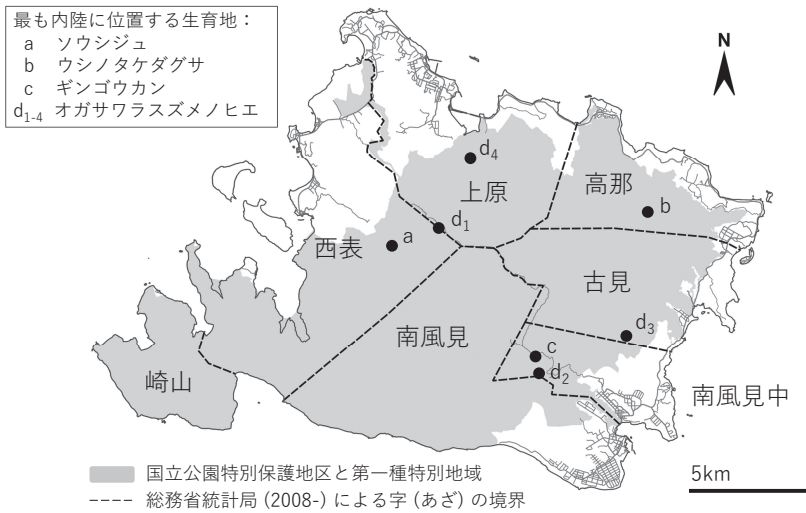


図1. 西表島国立公園特別保護地区及び第一種特別地域への外来植物4種の侵入状況。

Fig. 1. Four alien plant species in the Special Protection Zone and the Class 1 Special Zone (shaded part) of Iriomote Island National Park. a: *Acacia confusa*, b: *Erechtites hieracifolius* var. *calcioides*, c: *Leucaena leucocephala*, d<sub>1-4</sub>: *Paspalum conjugatum*.

## 結果と考察

本研究における野外調査と資料調査の結果、西表島の外来植物として57科248種が挙げられ、この詳細を「西表島外来植物目録 (2020)」として報告する。今回著者らの現地調査で標本が得られたものは206種あり、先行記録がなく、今回が西表島初記録 (栽培記録はあるものの野生化が初めて確認された場合を含む) となるのは次の59種であった。すなわち、アオミツバカズラ、アキコスズメガヤ、アメリカフウロ、アリアケカズラ、イヌドクサ、イヌバンレイシ、ウスバスナゴショウ、エダウチクサネム、オウゴンカズラ、オオトゲミモザ、オシロイバナ、オリヅルラン、カワリバトウダイ、キバナオトメアゼナ、キバナツルネラ、クダモノタマゴ (カニステル)、クダモノトケイソウ、ケブカルイラソウ、コケセンボンギクモドキ、コゴメミズ、コスズメガヤ、コトブキギク、コロマンソウ、シバ、シマミソハギ、ショウジョウソウ、スギノハカズラ、セイタカカナビキソウ、台湾ミズハコベ、タマザキフタバムグラ、チトセラン、ツキミソウ、ツボミオオバコ、トウゴマ、ニセアゼガヤ、ニトベギク、ハスノハヒルガオ、ハナセンナ、ヒメコガネヒルガオ、ヒメセンナリホオズキ、ヒメノアサガオ、ヒレタゴボウ、ヒロハサギゴケ (広義)、ヒロハフタバムグラ、フシナシササハギ、ブッソウゲ、ヘチマ、ホシアザミ、ホソバキンゴジカ、ホソバヒメミソハギ、マメトマト (ミニトマト)、マルミスズメノヒエ、ムラサキオモト、モミジヒルガオ、モヨウビユ、モロコシ (広義)、ヤコウカ、ヤナギバルイラソウ、ルリアザミ (五十音順) である。

現在のところ、国立公園内の特別保護地区とそれに準ずる扱いとなる第一種特別地域において、その辺縁に留まらずより内陸部森林内にまで侵入している外来植物は多くはなかった。しかしながら、フトモモやフクギが国立公園特別保護地区・第一種特別地域内部の多くの地点で確認されたほか、ギンゴウカン (ギンネム)、ソウシジュ、オガサワラスズメノヒエ、ウシノタケダグサの侵入もその一部で確認された (図1)。このうちギンゴウカンは、「世界の侵略的外来種ワースト100」および国の重点対策外来種に指定されている (環境省・農林水産省, 2015; Lowe et al., 2020)。内陸部森林内にまで侵入している外来植物について、日本森林技術協会の調査による西表島外来植物調査報告 (九州森林管理局, 2013) と比較すると、今回は森林環境内の外来植物としてウシノタケダグサが初めて記録された。また、オガサワラスズメノヒエの森林内侵入箇所として西表地区に加えて、上原・古見・南風見中地区の3地区が追加された (図1)。これら森林内に侵入している種については、特定外来生物と等しく、重点的な監視や駆除対策が必要とされるだろう。ギンゴウカン同様「世界の侵略的外来種ワースト100」に挙げられ (Lowe et al., 2020)、国の緊急対策外来種となっているツルヒヨドリは (環境省・農林水産省, 2015)、非常に強い繁殖力によって他の植物が生育できないほど繁茂し、在来生態系に大きな被害を及ぼすことが知られている (Day et al., 2016; 沖縄県, 2020a)。西表島においてツルヒヨドリは、優先的な駆除対策が行われており、現段階では森林内部までの侵入は見つかっていないが、今後も継続的に監視してい

く必要がある。環境省・農林水産省（2015）が指定する緊急対策外来種としては、今回他にもボタンウキクサとアメリカハマグルマが記録された。ボタンウキクサが確認されたのは一部の水田のみであったが、アメリカハマグルマは崎山を除く全ての地区の人為環境で生育が見られた。

近年西表島では、観光客や観光業者、それに伴う開発や自然利用が増加している（白石・藤野，2017）。とくに草本植物は、人の踏み入れや自然利用の増加に伴い、比較的容易に内陸部の森林へ運ばれる可能性がある。2011年に世界自然遺産として登録された小笠原諸島では泥落としマットや粘着ローラーで、靴や衣服・装備品へ付着した種子を持ち込まない水際対策が行われている（新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ，2013）。西表島においても同様の方法で水際対策を行い、さらに採集された種子の形態やDNAバーコーディングによる種同定を行うことで、種ごとの侵入量推定や新たな外来植物の侵入監視ができるだろう。

最後に、本報告をもとに、どのような植物が西表島の外来種であるかという基本的な情報が広く示され、外来種拡散防止の意識が多くの人々の中で高まることを期待する。また、農業や園芸利用に由来する逸出種についても、現段階で侵略的であるかどうか不明なものもあるため、今後適正に利用され、原野へ逸出しないよう十分な注意が払われるべきであり、今回示した生育地の現状が活用され、分布域拡大に対する監視体制の整備へ繋がることを期待する。

### 謝辞

現地調査において、古本良氏、指村奈穂子氏、大越光太郎氏、戸澤さき氏、田金秀一郎氏、梶田忠氏に大変お世話になった。また、一部の植物の同定に茨木靖氏のお力添えを頂いた。ここにお名前を挙げ感謝の意を表す。本研究は、琉球大学の研究プロジェクト推進経費（戦略プロジェクト研究；No. 17SP01302）及び（独）環境再生保全機構の環境研究総合推進費（JPMEERF202004003）により実施された。

### 引用文献

- 安溪貴子 1987. 沖縄・西表島のサトイモ科植物の形態と染色体数. 沖縄生物学会誌 25: 1-11.
- 新本光孝・石垣長健・米盛重友・山盛直 1984. 熱帯有用樹の導入・育成に関する研究: 第2報 巨大ギンネムの発芽及びさし木試験. 琉球大学農学部学術報告 31: 279-285.
- 新本光孝・新里孝和・山盛直・平田永二 1989. 熱帯・亜熱帯性資源植物の収集・保存に関する研究 (II) : 西表島の森林資源について. 琉球大学農学部学術報告 36: 137-149.
- 新本光孝・玉城浩次・津嘉山健・砂川季昭 1977. 亜熱帯地域の森林施業に関する研究 (I) : 西表島における熱帯有用樹の分布について. 琉球大学農学部学術報告 24: 753-762.
- 新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ 2013. 世界自然遺産推薦地域 小笠原諸島 新たな外来種の侵入・拡散防止行動計画の策定に向けた課題整理. [http://ogasawara-info.jp/pdf/isan/challenge\\_invasive%20alien%20species\\_1.pdf](http://ogasawara-info.jp/pdf/isan/challenge_invasive%20alien%20species_1.pdf) (最終閲覧日: 2021年6月14日).
- Chang, C. S., Liu, H. L., Moncada, X., Seelenfreund, A., Seelenfreund, D. and Chung, K. F. 2015. A holistic picture of Austronesian migrations revealed by phylogeography of Pacific paper mulberry. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 112: 13537-13542.
- Chemisquy, M. A., Giussani, L. M., Scataglini, M. A., Kellogg, E. A. and Morrone, O. 2010. Phylogenetic studies favour the unification of *Pennisetum*, *Cenchrus* and *Odontelytrum* (Poaceae) : a combined nuclear, plastid and morphological analysis, and nomenclatural combinations in *Cenchrus*. *Annals of Botany* 106 (1) : 107-130.
- Chen, S. H. and Wu, M. J. 2004. *Chamaesyce hypericifolia* (L.) Millsp., a newly naturalized spurge species in Taiwan. *Taiwania* 49 (2) : 102-108.
- Carlquist, S. 1974. *Island Biology*. Columbia University Press, New York, 660pp.
- Day, M. D., Clements, D. R., Gile, C., Senaratne, W. K. A. D., Shen, S., Weston, L. A. and Zhang, F. 2016. Biology and impacts of Pacific islands invasive species. 13. *Mikania micrantha* Kunth (Asteraceae). *Pacific Science* 70(3) : 257-285.



- Lowe, S., Browne, M., Boudjelas, S., and De Poorter, M. 2020. 100 of the World's Worst Invasive Alien Species: A selection from the Global Invasive Species Database. Invasive Species Specialist Group, International Union for the Conservation of Nature. <http://www.iucngisd.org/gisd/pdf/100English.pdf> (accessed on 19 Jun, 2021).
- 藤井義晴 2006. 外来植物のアレロパシー —外来植物から単離された他感物質と、今後侵入が危惧される植物のアレロパシーについて—. 農業および園芸 81 (8) : 877-884.
- 藤吉正明・北野 忠・崎原 健・藤野裕弘・河野裕美 2012. 西表島の水田域における湿生植物8種の分布とそれらの生育環境. 東海大学沖縄地域研究センター所報 西表島研究 2011: 20-29.
- 初島住彦 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正版). 沖縄生物教育研究会, 那覇, 1002pp.
- 初島住彦 1980. 植物相の由来. 木崎甲子郎 編, 琉球の自然史. 築地書館, 東京, pp. 113-123.
- 初島住彦・天野鉄夫 1977. 琉球植物目録. でいご出版社, 那覇, 282pp.
- 初島住彦・天野鉄夫 1994. 琉球植物目録 (改訂増補版). 沖縄生物学会, 西原, 393pp.
- 東 清二・金城政勝 1981. 西表島の焼畑農地における昆虫類の群集構造. 琉球大学農学部学術報告 28: 31-39.
- 茨木 靖・木場英久・佐藤広行・米倉浩司 2016. イネ科. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司 編, 改訂新版日本の野生植物2: イネ科~イラクサ科. 平凡社, 東京, pp. 23-99, pls. 1-53.
- 茨木 靖・木場英久・横田昌嗣 2020. 南のイネ科ハンドブック. 文一総合出版, 東京, 120pp.
- 池原直樹 1984. 帰化植物. 沖縄生物教育研究会 編, 沖縄の生物. 沖縄生物教育研究会, 那覇, pp. 367-375.
- 池原直樹 (著)・多和田真淳 (監) 1989a. 沖縄植物野外活用図鑑 第7巻: シダ植物~まめ科. 新星図書出版, 那覇, 286pp.
- 池原直樹 (著)・多和田真淳 (監) 1989b. 沖縄植物野外活用図鑑 第9巻: あかね科~らん科. 新星図書出版, 那覇, 285pp.
- Ishimine, Y., Aramoto, M., Shinzato, T., Yamamori, N. and Yonemori, S. 1992. Distribution of cropland weeds and naturalized plants in Iriomote Island and its aspects in emergence. The Science Bulletin of the Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus 39: 157-175.
- 岩瀬剛二・乙幡獎平 2016. 西表島の海岸植物の多様性. 帝京科学大学紀要 12: 57-74.
- 環境省・農林水産省 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト: 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>. [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka\\_plant.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka_plant.pdf) (最終閲覧日: 2021年6月19日).
- 勝山輝男 2012. 日本で記録されたイネ科オヒゲシバ属の外来種. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) 41: 27-33.
- 北村四郎 1946. 植物分類新知見. 植物学雑誌 59 (695-696): 35-41.
- 北野 忠・水谷 晃・河野裕美 2010. 西表島西部の水田に定着した特定外来生物ボタンウキクサ. 東海大学沖縄地域研究センター所報 西表島研究 2009: 29-34.
- 小林達明 2004. 特集「自然再生をめぐる学術と技術の展望」外来種 (移入種) 問題と緑化. 日本緑化工学会誌 3 (2) : 396-398.
- Kurosawa, T. 2001. Taxonomy and distribution of Japanese *Phyllanthus* (Euphorbiaceae). Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 51 (1) : 11-33.
- 黒沢高秀 2001. 日本産雑草性ニシキソウ属 (トウダイグサ科) 植物の分類と分布. 植物分類地理 51 (2) : 203-229.
- 黒沢高秀 2016a. トウダイグサ科. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司 編, 改訂新版日本の野生植物3: バラ科~センダン科. 平凡社, 東京, pp. 147-166, pls. 122-133.
- 黒沢高秀 2016b. コミカンソウ科. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司 編, 改訂新版日本の野生植物3: バラ科~センダン科. 平凡社, 東京, pp. 167-177, pls. 134-137.
- 九州森林管理局 2013. 西表島外来植物調査報告 (「第2回西表島森林生態系保護地域保全管理委員会」配布資料: 参考資料1). [https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyuu/keikaku/hogorin/shinnrinseitaikeihogotiiki/pdf/iriomote2\\_sankoshiryo1.pdf](https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyuu/keikaku/hogorin/shinnrinseitaikeihogotiiki/pdf/iriomote2_sankoshiryo1.pdf) (最終閲覧日: 2021年6月14日).

- 九州森林管理局西表森林生態系保全センター 2020. 西表島の植物誌. 九州森林管理局西表森林生態系保全センター, 石垣, 310pp.
- 真坂一彦・山田健四・小野寺賢介 2006. ニセアカシアとはどんな樹木か 外来種問題の視点から. 光珠内季報 142: 9-13.
- Masamune, G. 1953. Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum (Ⅲ). The Science Reports of Kanazawa University 2 (1) : 139-144.
- Masamune, G. 1955a. Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum (Ⅵ). The Science Reports of Kanazawa University 3 (3) : 253-338.
- Masamune, G. 1955b. Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum (Ⅶ). The Science Reports of Kanazawa University 4 (1) : 45-134.
- Masamune, G. 1956. Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum (Ⅷ). The Science Reports of Kanazawa University 4 (4) : 201-280.
- Maurin, O, Turner, I. M., Boatwright, J. S. and Christenhusz, M. J. M. 2020. New combinations in Combretaceae subtribe Combretinae from Africa and Asia. Phytotaxa 451: 231-237.
- Medecilo, M. P. and Madulid, D. A. 2014. A review of the taxonomy and taxonomic characters of Philippine *Alocasia* (Schott) G. Don (Araceae). Philippine Journal of Science 142 (Special Issue) : 145-157.
- 宮脇 昭・中村幸人・村上雄秀・塚越優美子・鈴木邦雄・鈴木伸一・仲田栄二 1983. 西表島沿海部の植生学的研究. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要 9: 91-137.
- 宮崎 卓 2018. 沖縄県西表島で確認した水田雑草群落の報告. 植生情報 22: 68-71.
- 村中孝司 2005. 誌上討論「生物多様性と群落(生物群集)の構造としての種多様性との関係」: 外来種の侵入が在来種の生育や生物多様性に及ぼす影響について. 植生情報 9: 79-87.
- 村中孝司・鷺谷いづみ 2006. IMC9 公開シンポジウム記録4: 日本における外来種問題の現状と課題 —特に外来緑化植物シナダレスズメガヤの侵入における問題について—. 哺乳類科学 46 (1) : 75-80.
- Murata, J. 2016. Araceae. Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds., Flora of Japan IVb. Kodansha, Tokyo, pp.6-31.
- 邑田 仁 (監)・米倉浩司 (著) 2012. 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京, 379 pp.
- 水町 進・新城 健・川本康博 2011. 八重山地域・西表島における暖地型イネ科牧草の生育特性と適草種の選定. 日本暖地畜産学会報 54 (1) : 61-70.
- 中本 敦・伊澤雅子 2013. 沖縄島に植栽されているデイゴの訪花者群集とその日周変化. 保全生態学研究 18: 111-119.
- 中村 剛 2012. 琉球及び台湾の植物地理. 分類 12 (2) : 117-139.
- 中島邦雄 1980. 沖縄の帰化植物. 植物と自然 14 (12) : 11-13.
- 中田政司・伊藤隆之 2003. ノリ面緑化現場における外来シマカンギクと在来ノジギクとの自然交雑事例. 保全生態学研究 8: 169-174.
- 仲里長浩 2011. 沖縄県に現存するフクギ屋敷林の巨木化の現状と木材資源としてのフクギの利用との関係. 日本建築学会計画系論文集 76 (665) : 1259-1265.
- 楠城時彦 2015. 希少樹木講座6: 八重山諸島の希少樹種の保全. 樹木医学研究 19 (4) : 205-211.
- 西村 格・阿部二郎・庄司舜一・斎藤吉満 1984. 先島諸島における半自然草地の植生とマメ科植物について. 日本草地学会誌 30 (1) : 29-39.
- 沖縄県 2020a. 沖縄県外来種対策行動計画に基づくツルヒヨドリ防除計画. <https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/documents/05-11turuhiyodori.pdf> (最終閲覧日: 2021年6月19日).
- 沖縄県 2020b. 沖縄県外来種対策行動計画に基づく外来植物の適正利用方針. [https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/documents/02\\_gairaisiyokubutu.pdf](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/documents/02_gairaisiyokubutu.pdf) (最終閲覧日: 2021年6月19日).
- 大橋広好 1986. 琉球のアフリカコマツナギ. 植物研究雑誌 61 (5) : 147.
- 大井次三郎 1942. 東亜植物資料18. 植物分類地理 11 (4) : 249-265.
- 大野 豪・根本明子・宮里 進・東嘉弥真勇人・宮城徳道・山城信哉・玉城盛俊 2016. 沖縄県におけるヒハツ

- モドキの地理的分布と生育環境の特徴, ならびに害虫等による本種の被害・障害に関する予備的知見. 熱帯農業研究 9 (1) : 1-11.
- 大井次三郎 1942. 東亜植物資料18. 植物分類地理 11 (4) : 249-265.
- 大川智史・林将之 2016. ネイチャーガイド琉球の樹木, 奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑. 文一総合出版, 東京, 488pp.
- Pyšek, P., Jarošík, V., Hulme, P. E., Pergl, J., Hejda, M., Schaffner, U. and Vila, M. 2012. A global assessment of invasive plant impacts on resident species, communities and ecosystems: the interaction of impact measures, invading species' traits and environment. *Global Change Biology* 18: 1725-1737.
- 琉球の植物研究グループ 2018-. 「琉球の植物」データベース, 国立科学博物館. [https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot\\_japan/ryukyus/db/](https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/ryukyus/db/) (最終閲覧日: 2020年9月22日).
- 桜谷保之 2012. 里山的環境における生物間相互作用. 樹木医学研究 16 (2) : 61-62.
- Shimabuku, K. 1974. New or noteworthy ferns and their allies from the Ryukyus. Ikehara, N. ed., *Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands I*, University of the Ryukyus, Naha, pp.47-50.
- 鳥袋敬一 1997. 琉球列島維管束植物集覧. 九州大学出版会, 福岡, 855pp.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 2001. 日本帰化植物写真図鑑—Plant invader 600種. 全国農村教育協会, 東京, 548pp.
- 清水建美 2003. 日本の帰化植物. 平凡社, 東京, 337pp.
- Simões, A. R. and G. W. Staples 2017. Dissolution of Convolvulaceae tribe Merremieae and a new classification of the constituent genera. *Bot. J. Linn. Soc.* 183 (4) : 561-586, f. 1-17.
- 新城 健・星野正生 1989. 南西諸島における熱帯イネ科牧草の導入と栽培 (I) : 有望 5 草種の比較について. 琉球大学農学部学術報告 36: 131-136.
- 新里孝和・新本光孝・山盛 直 1993. 西表島における牧草地の植生と採食植物. 琉球大学農学部学術報告 40: 153-165.
- 白石 綾・藤野裕弘 2017. 世界自然遺産候補地「西表島」の観光における自然利用の現状. 東海大学沖縄地域研究センター所報 西表島研究 2016: 67-74.
- Sosef, M. S. M. 2016. Taxonomic novelties ion Central African grasses (Poaceae), Paniceae 1. *Plant Ecology and Evolution* 149 (3) : 356-365.
- 総務省統計局 2008. 政府統計の総合窓口 (e-Stat). <https://www.e-stat.go.jp/> (最終閲覧日: 2020年10月7日).
- Spotswood, E. N., Meyer, J. Y. and Bartolome, J. W. 2012. An invasive tree alters the structure of seed dispersal networks between birds and plants in French Polynesia. *Journal of Biogeography* 39: 2007-2020.
- 高江洲賢文・高江洲和子 1992. 沖縄県の主要作物畑における帰化雑草. 雑草研究 37 (3) : 220-225.
- Takahashi, K. and Hanyu, M. Hybridization between alien species *Rumex obtusifolius* and closely related native vulnerable species *R. longifolius* in a mountain tourist destination. *Scientific Reports* 5 (13898) : 1-9.
- 高嶺英言 1952. 八重山群島植物誌. 琉球林業試験場彙報 1, 琉球林業試験場, 那覇, 191pp.
- 竹富町 2017. 指定外来生物の指定について. <https://www.town.taketomi.lg.jp/userfiles/files/topics/seisakuuishin/nature/nature02.pdf> (最終閲覧日: 2021年6月19日).
- 田中伸幸 2015. カンナ科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 編, 改訂新版日本の野生植物 1: ソテツ科～カヤツリグサ科. 平凡社, 東京, p.273, pl.193.
- 立石庸一 1988. コチャウインゲンの台湾と琉球における分布とその要因. 植物研究雑誌 63 (9) : 313-318.
- 辻 真弥・日置佳之 2017. 種特性からみた外来植物の侵略性評価モデルの作成. 日本緑化工学会誌 43 (1) : 33-38.
- 常木静河・岩田美波・渡邊幹男・芹沢俊介 2018. 外来種オオカワヂシャが在来種カワヂシャへ与える影響の検討. 植物地理・分類研究 66 (2) : 135-145.
- 植村修二・清水矩宏・水田光雄・廣田伸七・森田弘彦・勝山輝男・池原直樹 2015. 増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻—Plant invader 500種. 全国農村教育協会, 東京, 595pp.
- UNESCO, ICCROM, ICOMOS and IUCN 2012. *Managing Natural World Heritage*. Paris, UNESCO World

- Heritage Centre. (World Heritage Resource Manual.) <http://whc.unesco.org/uploads/activities/documents/activity-703-1.pdf> (accessed on 14 Jun, 2021).
- Walker, E. H. 1976. Flora of Okinawa and the Southern Ryukyu Islands. Smithsonian Institution Press, Washington, DC., 1159pp.
- 山下雅幸 2002. 外来牧草の野生化(特集: 草地学と保全1. 外来種の侵入と遺伝子組換え作物). 日本草地学会誌 48 (2) : 161-167.
- Yamazaki, T. 1993. Convolvulaceae. Iwatsuki, K., Boufford, D. E., Yamazaki, T. and Ohba, H. eds., Flora of Japan IIIa. Kodansha, Tokyo, pp.195-205.
- 横井智之・波部彰布・香取郁夫・桜谷保之 2008. 近畿大学奈良キャンパスにおける訪花昆虫群集の多様性. 近畿大学農学部紀要 41: 77-94.
- 横田昌嗣 2016. 沖縄県の陸水維管束植物相の概要と現状. 陸水学雑誌 77: 199-202.
- 米盛重友 1979. 森林の開墾にともなう植生の変化について: 第1報 初期における低木および草本類の生態について. 琉球大学農学部学術報告 26: 749-758.
- Yonekura, K. 2007. Notes on Polygonaceae in Japan and its adjacent regions (1) . The Journal of Japanese Botany 82 (1) : 1-19.
- 米倉浩司 2017. ヒルガオ科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 編, 改訂新版日本の野生植物 5: ヒルガオ科～スイカズラ科. 平凡社, 東京, pp.1-32, pls.1-7.
- 米倉浩司・梶田 忠 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス (YList). <http://ylist.info> (最終閲覧日: 2021年6月28日).



表1. 西表島の外来生物目録 (2020).

Table 1. Provisional list of alien plant species in Iriomote Island, Okinawa, Japan.

## 西表島の外来植物目録 (2020)

## Provisional list of alien plant species in Iriomote Island, Okinawa, Japan

現地調査および標本・文献調査によって西表島に野生状態で生育すると確認できた外来植物を以下に挙げた。今回は西表島初記録となる種には、和名の前に\*を印した。種の学名・和名の取り扱いについては、先行研究で他の見解が示される場合もあるが、本目録では原則米倉・梶田(2003-)によるYlistの標準和名及び学名に従い、そうでない場合は備考または註でその根拠を示した。各種の生育確認地区の欄は7つの字(あざ)ごとに区分され、西表島フロラプロジェクトの著者らによる採集標本または写真記録がある地区には◎、著者が目視のみにて生育を確認した地域には○、また先行研究によって示された生育地域には+を記入した。逸出(園芸・放牧)や国内帰化種、在来種として扱われることもある種、また政策上の位置付けなどの特記事項がある種については、その内容を備考欄に示すか註に記述した。

種名	生育確認地区							西表フロラプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中	南風見 山	嶺山				
<b>Equisetaceae トクサ科</b>											
<i>Equisetum ramosissimum</i> Desf. *イヌトクサ	◎							Kajita YK20022008			逸出または国内帰化
<b>Pteridaceae イノモトソウ科</b>											
<i>Pityrogramma calomelanos</i> (L.) Link ギンダ		+			+			Yonekura 98371, TUS (1998); Iha et al. 11105, OCF (1987); Ohno s.n., RYU 38471-39474 (1973)	Shimabuku (1974)		
<b>Piperaceae コショウ科</b>											
<i>Peperomia pellucida</i> (L.) Kunth *ウスバスナゴシヨウ	◎							Kajita YK20070702			
<i>Piper retrofractum</i> Vahl ヒバツモドキ		+			○			Toyama et al. HT1502	Miyagi 9286, RYU (1980); Shimabuku 5121, RYU (1980); Migo s.n., TUS 62670 (1962)	大野ほか (2016), Masamune (1953)	逸出 (園芸); 註(1)
<b>Annonaceae パンレイシ科</b>											
<i>Annona glabra</i> L. *イヌパンレイシ	◎							Kajita YK20070704, YK20070705; Toyama & Kajita HT1310			逸出 (園芸)
<b>Araceae サトイモ科</b>											
<i>Alocasia cucullata</i> (Lour.) G.Don シマクワズイモ										安溪 (1987)	
<i>Alocasia</i> sp. aff. <i>macrorhizos</i> ヤエヤマクワズイモ	◎							Yonekura et al. 25718		安溪 (1987)	註(2)
<i>Epipremum aureum</i> (Linden ex André) Bunting *オウゴンカズラ	◎							Kajita YK19111505			逸出 (園芸); 沖縄県対策種
<i>Pistia stratiotes</i> L. ボタンウキクサ	◎							Kajita YK19101512		藤吉ほか (2012), 北野ほか (2010)	特定外来生物。緊急対策外来種。沖縄県対策種
<i>Syngonium podophyllum</i> Schott *アオミツバカズラ	◎	○			○			Yonekura & Abe 26408			逸出 (園芸)
<b>Dioscoreaceae ヤマノイモ科</b>											
<i>Dioscorea bulbifera</i> L. ニガカシユウ (広義)	◎				+			Kajita YK20022802	Miyagi 9538, RYU (1981)		逸出 (園芸)
<b>Asparagaceae クサスギカズラ科 (キジカクシ科)</b>											
<i>Asparagus densiflorus</i> (Kunth) Jessop 'Sprenger' *スキノハカズラ	◎							Kajita YK20062101			逸出 (園芸)
<i>Chlorophytum comosum</i> (Thunb.) Jacques *オリヅルラン	◎							Kajita YK20102901			逸出 (園芸)
<i>Sansevieria nilotica</i> Baker *チトセラン	◎							Kajita YK20071701			逸出 (園芸); その他の総合対策外来種。沖縄県対策種
<b>Arecaceae ヤシ科</b>											
<i>Dypsis lutescens</i> (H.Wendl.) Beentje et J.Dransf. アレカヤシ	◎							Naiki & Kajita 17647			九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020)
<i>Rhapis excelsa</i> (Thunb.) A.Henry ex Rehder カンノンチク	○							(目視確認のみ)		高嶺 (1952, 栽培)	逸出 (園芸)
<b>Commelinaceae ツククサ科</b>											
<i>Tradescantia spathacea</i> Sw. *ムラサキオモト	◎							Kajita YK19111504			逸出 (園芸)
<b>Pontederiaceae ミズアオイ科</b>											
<i>Eichhornia crassipes</i> (Mart.) Solms ホテイアオイ					◎			Akai 12053	Naito 831143, TUS (1983)		九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020), 北野ほか (2010), Ishimine et al. (1992), 高嶺 (1952)
<b>Cannaceae カンナ科</b>											
<i>Canna indica</i> L. var. <i>flava</i> (Roscoe) Baker キバナダンドク	◎	◎						Kajita YK19101513	Gima 186, RYU (1979); Naito et al. 74436, TUS (1974); Yamazaki s.n., RYU 26046 (1963); Migo s.n., TUS 41236 (1962)	田中 (2015, 写真2014), 高嶺 (1952, as <i>C. flaccida</i> )	逸出 (園芸)
<i>Canna indica</i> L. var. <i>indica</i> ダンドク (アカバナダンドク)		○						(目視確認のみ)	Shimoda 767, TUS (1981, 花色不明); Gima 229, RYU (1979); Yamashita 11120, TI, TUSG (1968, 花色不明); Migo s.n., TUS 41237 (1962)	田中 (2015), 高嶺 (1952, as <i>C. indica</i> & <i>C. coccinea</i> )	逸出 (園芸)
<b>Musaceae パショウ科</b>											
<i>Musa balbisiana</i> Colla var. <i>liukuensis</i> (Matsum.) Häkkinen リュウキユウパショウ					○			(目視確認のみ)	Naito et al. 74202, TUS (1974); Niro & Miyagi 6411, RYU (1974); Migo s.n., TUS 41233 (1962)	高嶺 (1952, as <i>M. liukuensis</i> )	逸出 (園芸)
<b>Zingiberaceae ショウガ科</b>											
<i>Alpinia x formosana</i> K.Schum. クマタケラン	◎	◎				◎		Naiki et al. 9541; Naiki et al. 13038	Yasuda 645, KYO, TUS (2002); Tateishi & Murata 4792, TI, TUS (1980); Hatusima 34627, RYU (1973)	高嶺 (1952, as <i>A. kumatake</i> ), 北村 (1946)	
<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.) B.L.Burtt et R.M.Sm. ゲツトウ	◎	◎	○	◎	○	○		Naiki et al. 8441, 10589, 11739, 18603; Toyama et al. HT95, HT101, HT1476	Yonekura & Yasuda 12220, TUS (2004); Yonekura 98449, TUS (1998); Naito 74426, TUS (1974); Suzuki s.n., TUS 233128-9; Yasuda 2575, 2852, KYO, TUS	藤吉ほか (2012), 新里ほか (1993), 高嶺 (1952, as <i>A. speciosa</i> )	逸出 (園芸)
<b>Cyperaceae カヤツリガサ科</b>											
<i>Cyperus alternifolius</i> L. subsp. <i>habeiliformis</i> Kük. シュロガヤツリ	◎	◎						Akai 12128; Naiki et al. 11054, 16224; Yonekura et al. 25752	Yonekura 11222, TUS (2004); Yonekura 9646, TUS (2002)	Ishimine et al. (1992, as <i>C. alternifolius</i> var. <i>obtusangulus</i> ), 高嶺 (1952, as <i>C. alternifolius</i> 栽培)	逸出 (園芸); 重点対策外来種。沖縄県対策種

種名	生育確認地区					西表フラプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中				
<b>Poaceae イネ科</b>									
<i>Axonopus compressus</i> (Sw.) P.Beauv. ツルメシバ	◎ +		◎ +	◎ +		<i>Amano &amp; Okoshi</i> 3220; <i>Toiyama et al.</i> HT1295; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26464; <i>Yonekura et al.</i> 25727	<i>Yonekura</i> 9705, TUS (2002); <i>Hatusima s.n.</i> , RYU 5063 (1972)	茨木ほか (2020), 新里ほか (1993)	
<i>Bambusa multiplex</i> (Lour.) Raeusch. ex Schult. et Schult.f. ホウライチク	◎ +				○	<i>Amano et al.</i> 3373; <i>Yonekura et al.</i> 25802	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9794, TUS (2002); <i>Shinjo</i> 1113, URO (1957)	高嶺 (1952, as <i>Leleba lukuiensis</i> )	逸出 (圏表)
<i>Bambusa vulgaris</i> Schrad. ex J.C.Wendl. ダイサンチク	◎		◎			<i>Yonekura &amp; Abe</i> 26722 & 26796		高嶺 (1952, as <i>Leleba vulgaris</i> )	逸出 (圏表); その他の対策外来種。沖縄県対策種
<i>Bothriochloa bladhii</i> (Retz.) S.T.Blake ダイサンチク	◎ +		◎ +	○	◎	<i>Kajita</i> YK19100702, YK19100703, YK19100704	<i>Yasuda</i> 2062, KYO, TUS (2003)		重点対策外来種。沖縄県対策種
<i>Cenchrus echinatus</i> L. シンクリノイガ	◎ +			◎ +	○	<i>Akai</i> 12084; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH20	<i>Yasuda</i> 2062, KYO, TUS (2003); <i>Yonekura</i> 98446, TUS (1998); <i>Tateishi &amp; Matsuda</i> 44718, URO (1997); <i>Naito</i> 720179, TUS (1972); <i>Oka</i> 16447, KAG (1961)	<i>Ishimine et al.</i> (1992, as <i>C. brownii</i> )	
<i>Cenchrus polystachios</i> (L.) Morrone subsp. <i>setosus</i> (Sw.) P.M.Peterson et Y.Herrera マキバチカラシバ		+	+			<i>Yonekura &amp; Abe</i> 26599, 26790	<i>Yasuda</i> 3256, KYO, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 12057, TNS, TUS (2004); <i>Yasuda</i> 2199, TNS (2003); <i>Yonekura</i> 9571, TUS (2002); <i>Fujimoto</i> 87124, HYO, TUS (1987)		逸出 (牧草); 学名 (属名) は Chemisquy (2010) に従った; 註(3)
<i>Cenchrus purpureus</i> (Schumach.) Morrone ナビアグラス	○	◎	○	○	○	<i>Toiyama &amp; Kajita</i> HT166	<i>Yonekura</i> 12059, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 98419, 98436, TUS (1998); <i>Onashi &amp; Tateishi</i> 1651, URO (1978); <i>Naito</i> 720146, TUS (1972); <i>Shinjo</i> 1059, URO (1957)	新城・星野 (1989)	逸出 (牧草); 学名 (属名) は Chemisquy (2010) に従った
<i>Chloris barbata</i> Sw. シマヒゲシバ	+	+	◎	◎	◎	<i>Akai</i> 12085; <i>Akai &amp; Kin</i> 11617; <i>Kajita</i> YK20071501; <i>Naki &amp; Kajita</i> 11696	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 11274, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 98279, TUS (1998)	勝山 (2012), 水町ほか (2011), 新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Chloris gayana</i> Kunth アフリカヒゲシバ		◎	○	○	○	<i>Akai</i> 12070; <i>Kajita</i> YK20011002	<i>Yonekura</i> 98399, 98424, TUS (1998)	新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992), 新城・星野 (1989)	逸出 (牧草)
<i>Chloris pycnothrix</i> Trin. ナガヒゲシバ	◎	◎	◎	◎	◎	<i>Akai</i> 12080; <i>Kajita</i> YK20030102; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH30; <i>Yonekura</i> 26212; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26404, 26771	<i>Yasuda</i> 2665, KYO, TUS (2004); <i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 11275, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 9577, TUS (2002); <i>Kobayashi</i> 3552, MBK, TUS (2000)	茨木ほか (2020), 勝山 (2012)	
<i>Coix lacryma-jobi</i> L. var. <i>lacryma-jobi</i> ジュズダマ	◎ +	○		+		<i>Kajita</i> YK20102601, YK20102602; <i>Yonekura et al.</i> 26642	<i>Okada et al.</i> s.n., KYO, TUS (1982); <i>Furuse</i> 1942, RYU (1972); <i>Migo s.n.</i> , TUS 41578 (1962)	<i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Cynodon nlemfuensis</i> Vanderyst オニキョウギシバ			+		○		<i>Yonekura</i> 12062, TUS (2004)		水町ほか (2011)
<i>Dactyloctenium aegyptium</i> (L.) P.Beauv. タンツメガヤ	◎ +	◎	◎	◎	◎	<i>Akai</i> 12078; <i>Akai &amp; Kin</i> 11639; <i>Amano &amp; Okoshi</i> 3465; <i>Toiyama &amp; Kajita</i> HT154; <i>Yonekura</i> 26391; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26376, 26434	<i>Yonekura</i> 12322, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 9649, TUS (2002); <i>Tateishi &amp; Murata</i> 4691, TI, TUS (1980); <i>Naito</i> 720168, TUS (1972)	<i>Ishimine et al.</i> (1992), Walker (1976)	
<i>Dendrocalamus latiflorus</i> Munro マテク	+						<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9743, TUS (2002); <i>Furuse</i> 1069, RYU (1972)		逸出 (圏表)
<i>Dichanthium annulatum</i> (Forssk.) Stapf ヒメオニササガヤ	○ +	◎	◎	◎	○	<i>Kajita</i> YK19100701, YK19100801; <i>Shitara &amp; Toiyama</i> SH6; <i>Toiyama et al.</i> HT1510; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26387	<i>Yasuda</i> 3257, TNS (2004); <i>Yonekura</i> 9844, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98428, TUS (1998); <i>Ikeda</i> 4951, RYU (1978); <i>Niro &amp; Miyagi</i> 6421, RYU (1974)	茨木ほか (2016), 写真2013)	
<i>Digitaria insularis</i> (L.) Fedde スキメシバ	◎ +	◎	◎	◎	○	<i>Kajita</i> YK20070806; <i>Yonekura et al.</i> 26556	<i>Yasuda</i> 2617, KYO, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 12319, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 9600, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98434, TUS (1998); <i>Miyagi</i> 9197, RYU (1980); <i>Furuse</i> 330, RYU (1972)	茨木ほか (2020), 池原・多和田 (1999b), 写真1982)	逸出 (牧草)
<i>Diplachne fusca</i> (L.) P.Beauv. ex Roem. et Schult. subsp. <i>uninervis</i> (J.Presl) P.M.Peterson et N.Snow *ニセアゼガヤ			◎	◎		<i>Akai &amp; Kin</i> 11608; <i>Amano &amp; Okoshi</i> 3474; <i>Yonekura</i> 26196; <i>Yonekura et al.</i> 25837			
<i>Eragrostis atrovirens</i> (Desf.) Trin. ex Steud. クロカゼクサ	◎ +		◎			<i>Kajita</i> YK20030101; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26759	<i>Yasuda</i> 3013, KYO, TNS (2004)		
<i>Eragrostis curvula</i> (Schrad.) Nees シナダレスズメガヤ			◎			<i>Yonekura &amp; Abe</i> 26759	<i>Yasuda &amp; Yonekura</i> 2509, KYO, TNS, TUS (2004)		
<i>Eragrostis minor</i> Host *コスズメガヤ	◎	◎				<i>Kajita</i> YK20040807, YK20071401; <i>Yonekura et al.</i> 26640			
<i>Eragrostis tef</i> (Zuccagni) Trotter テフ									池原・多和田 (1999b), 写真1985)
<i>Eragrostis tenuifolia</i> (A.Rich.) Hochst. ex Steud. *アキコスズメガヤ	◎	◎		◎		<i>Akai</i> 12094; <i>Kajita</i> YK19111901; <i>Naki et al.</i> 15341; <i>Yonekura</i> 26208; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26859; <i>Yonekura et al.</i> 26767			
<i>Eremochloa ophiuroides</i> (Munro) Hack. チャボウシジツツペイ	◎					<i>Kajita</i> YK20060806	<i>Yasuda</i> 2019, KYO, TNS (2003)		
<i>Megathyrsus maximus</i> (Jacq.) B.K.Simon et S.W.L.Jacobs ギネアキビ	◎ +	◎	○	○	○	<i>Akai</i> 12060; <i>Amano &amp; Okoshi</i> 3294; <i>Naki &amp; Kajita</i> 18120; <i>Toiyama</i> HT1092; <i>Toiyama &amp; Kajita</i> HT1306; <i>Toiyama &amp; Sasimura</i> HT411	<i>Yonekura</i> 7932, TUS (2002); <i>Yonekura et al.</i> 98054, TUS (1998); <i>Hatusima</i> 35182, RYU (1973)	水町ほか (2011), 新里ほか (1993), 新城・星野 (1989), as <i>Panicum maximum</i>	逸出 (牧草); 産業管理外来種。沖縄県対策種
<i>Melinis repens</i> (Willd.) Zizka ルーバーガヤ	◎ +	◎				<i>Amano</i> 3346; <i>Yonekura et al.</i> 26652	<i>Yasuda</i> 2009, KYO, TUS (2003); <i>Miyagi &amp; Miyagi</i> 8104, RYU (1977)		
<i>Paspalum conjugatum</i> Bergius オガサワラスズメノヒエ	◎ +	◎	◎	○	○	<i>Akai</i> 11939; <i>Amano &amp; Okoshi</i> 3219; <i>Naki &amp; Kajita</i> 15377; <i>Toiyama et al.</i> HT1559; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26377; <i>Yonekura et al.</i> 26582	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 12143, TUS (2004); <i>Naito</i> 720117, TUS (1972); <i>Tamaki s.n.</i> , RYU 4699 (1971); <i>Matayoshi s.n.</i> , TUS (1961)	<i>Ishimine et al.</i> (1992), 新里ほか (1993), 西村ほか (1984)	
<i>Paspalum notatum</i> Flügge アメリカスズメノヒエ	◎					<i>Toiyama</i> HT1089	<i>Yasuda</i> 2655, KYO, TUS (2004)	新里ほか (1993), 西村ほか (1984)	逸出 (牧草); 産業管理外来種。沖縄県対策種
<i>Paspalum scrobiculatum</i> L. var. <i>scrobiculatum</i> *マルミスズメノヒエ			◎			<i>Yonekura &amp; Abe</i> 26378; <i>Yonekura et al.</i> 26553			逸出 (牧草)
<i>Paspalum urvillei</i> Steud. タヌシズメノヒエ	◎ +	◎	○	○	+	<i>Kajita</i> YK20071702; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26435	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 12207, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 9592, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98280, TUS (1998)	新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992)	その他の対策外来種。沖縄県対策種
<i>Rottoëllia cochinchinensis</i> (Lour.) Clayton ツノアイアン	◎ +	◎	◎	◎	◎	<i>Naki et al.</i> 15363; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH325; <i>Yonekura</i> 26222	<i>Yasuda</i> 2679, KYO, TUS (2004); <i>Yasuda</i> 1882, KYO, TUS (2003); <i>Yonekura</i> 9598, TUS (2002)	<i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Setaria parviflora</i> (Poir.) Kerguelen フシネキンエノコ			◎	◎		<i>Kajita</i> YK19112301; <i>Yonekura</i> 26210	<i>Yasuda</i> 833, KYO, TNS (2002)		

種名	生育確認地区					西表フロラボプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 南風見 中山				
<i>Setaria sphaecolata</i> (Schumach.) Stapf et C.E. Hubb. ex M.B. Moss アフリカキンエノコロ		+			+		Yasuda 2199, KYO, TNS (2003); Takahashi s.n., TUS 92206 (1970)		逸出 (牧草) 註(5)
<i>Setaria verticillata</i> (L.) P. Beauv. ザラツキエノコログサ		+			◎	Akai 12091	Yonekura 98417, TUS (1998)	Ishimine et al. (1992), 大井 (1942), Walker (1976)	
<i>Sorghum bicolor</i> (L.) Moench *モロコシ (広義)			◎		○	Yonekura et al. 26551			逸出 (牧草・緑肥)
<i>Sorghum halepense</i> (L.) Pers. セイバンモロコシ (ジョンソングラス)		◎				Naiki & Kajita 17654		Ishimine et al. (1992), Walker (1976)	
<i>Stenotaphrum secundatum</i> (Walter) Kuntze イヌシバ		◎			○	Shitara & Kajita SH21	Yonekura 98370, TUS (1998)	茨木ほか (2020)	逸出 (牧草)
<i>Urochloa eminii</i> (Mez) Davidse スリナムグラス		◎				Akai 12051; Kajita YK19113006, YK19113007; Shitara & Kajita SH330	Yasuda 2654, KYO, TUS (2004); Yasuda 1835, KYO, TUS (2003); Yonekura 98422, TUS (1998)		逸出 (牧草) 註(6)
<i>Urochloa glumaris</i> (Trin.) Veldkamp ニクキビモドキ				◎	◎	Yonekura et al. 26532 & 26647	Yasuda 2956, KYO, TNS, TUS (2004); Yonekura & Yasuda 11265, TUS (2004); Yasuda 2153, KYO, TUS (2003)	Masamune (1956, as <i>U. paspaloides</i> )	
<i>Urochloa mutica</i> (Forssk.) T.Q. Nguyen バラグラス		◎			◎	Shitara & Kajita SH332	Yasuda 1140, KYO, TNS (2002); Yonekura et al. 9818, TUS (2002)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Urochloa reptans</i> (L.) Stapf ヒメキビ					+		Iha 2292, OCF (1980)		
<i>Zoysia japonica</i> Steud. *シバ		◎				Kajita YK20060805, YK20071301			逸出 (園芸・牧草)
<b>Crassulaceae ベンケイソウ科</b>									
<i>Bryophyllum delagoense</i> (Ecklon et Zeyher) Schinz キンチョウ		◎				Kajita YK20021301	Yasuda 644, KYO (2002)		逸出 (園芸)
<i>Kalanchoe pinnata</i> (L.f.) Pers. トウロウソウ (セイロンベンケイ)		◎				Shitara & Kajita SH335		Ishimine et al. (1992), 高橋 (1952, as <i>Bryophyllum calycinum</i> )	逸出 (園芸) 重点 対策外来種 沖縄 県対策種
<b>Fabaceae マメ科</b>									
<i>Abrus precatorius</i> L. トウアズキ		+					Naito s.n., KAG (1940)	Walker (1976)	逸出 (園芸)
<i>Acacia confusa</i> Merr. ソウシジュ		◎	◎	◎		Kajita YK20080401; Naiki et al. 15215; Naiki & Yamamoto 20695, 20713; Toyama et al. HT1491	Koyama & Kato s.n., KYO, TUS (1973); Hosokawa s.n., TI, TUSG (1965)	橋城 (2015)	逸出 (園芸) 重点 対策外来種 沖縄 県対策種
<i>Aeschynomene americana</i> L. *エダウチクサネム		◎		◎	◎	Akai 11886, 12022; Kajita YK19110103; Yonekura & Abe 26474			逸出 (緑肥)
<i>Alysicarpus ovalifolius</i> (Schumach.) J.Lé onard *フシナシササハギ			◎			Yonekura 26224; Yonekura & Abe 26379			逸出 (緑肥)
<i>Amarpha fruticosa</i> L. イタチハギ		+	+	+			Yasuda 1700, KYO (2003); Yasuda 625, KYO (2002); Yonekura 98373, TUS (1998)		逸出 (園芸)
<i>Crotalaria juncea</i> L. サンヘンブ					○	(目視確認のみ)		Ishimine et al. (1992)	逸出 (緑肥)
<i>Crotalaria pallida</i> Aiton オオミツバタスキマメ (広義)					+		Ikeda 5045, KAG, RYU (1978); Amano 7316, KAG, RYU (1954)	Walker (1976)	逸出 (緑肥)
<i>Crotalaria trichotoma</i> Bojer アフリカタスキマメ		+					Haginawa JH 010822 & 010014, TNS (1977); Yamashita 11114, TI, TUSG (1968)		逸出 (緑肥)
<i>Derris elliptica</i> (Wall.) Benth. デリス (ドクフジ)		◎			◎	Kajita YK20030104; Naiki et al. 22707; Yonekura & Abe 26413	Yasuda 1726, KYO (2003); Miyagi 9296, RYU (1980); Ohashi & Tateishi 1661, URO (1978); Shinjo 4897, URO (1966)		逸出 (園芸)
<i>Desmanthus illinoensis</i> (Michx.) MacMill. ex B.L. Rob. et Fernald ハイクサネム		◎	◎			Akai 12052, 12100; Kajita YK20070908; Yonekura & Abe 26405		Ishimine et al. (1992)	
<i>Desmanthus perambucanus</i> (L.) Thell. たちくサネム		○	◎			Kajita YK20070808		Ishimine et al. (1992)	
<i>Desmodium incanum</i> (Sw.) DC. タチシバハギ		◎	◎		○	Toyama et al. HT1437; Yonekura & Abe 26487	Yonekura 9660, 9667, TUS (2002); Yonekura & Yasuda 9801, TUS (2002)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Erythrina variegata</i> L. デイゴ			◎		◎	Naiki et al. 8493, 23032	Migo s.n., TUS 39725 (1961)	新本ほか (1989)	逸出 (園芸)
<i>Indigofera bungeana</i> Walp. トウコマツナギ			+				Yonekura & Yasuda 11340, TUS (2004); Yasuda 1832, KYO, TNS, TUS (2003)		逸出 (園芸)
<i>Indigofera hendecaphylla</i> Jacq. アフリカコマツナギ		◎	◎	◎	◎	Akai 12149; Amano & Okoshi 3279; Amano et al. 3314; Naiki & Kajita 11694, 15378; Toyama & Sashimura HT418; Yonekura et al. 26544	Yonekura 9562, TUS (2002); Yonekura et al. 98079, TUS (1998); Nakaïke s.n., TNS, TUS (1985); Ohashi & Tateishi 1657, URO (1978)	Ishimine et al. (1992), 大橋 (1986)	逸出 (園芸)
<i>Indigofera hirsuta</i> L. タヌキコマツナギ								池原・多和田 (1989a, 写真 1985)	
<i>Indigofera suffruticosa</i> Mill. ナンバンコマツナギ		+	+	+			Yonekura & Yasuda 11341, TUS (2004); Haginawa JH009887, TNS (1986); Shinjo 6362, TUS, URO (1981)		
<i>Kummerowia striata</i> (Thunb.) Schindl. ヤハズソウ		◎				Kajita YK19062805, YK19070601, YK19070602, YK19070603, YK19070604, YK19070605	Yasuda 2939, KYO (2004)		国内帰化
<i>Lablab purpurea</i> (L.) Sweet フジマメ		+			◎	Amano 3356	Yasuda 1671, KYO (2003); Nakaïke s.n., TNS, TUS 110932 (1985)		逸出 (園芸)
<i>Lespedeza bicolor</i> Turcz. ヤマハギ			+				Yonekura 98359, TUS (1998)		逸出 (園芸)
<i>Lespedeza cuneata</i> (Dum.Cours.) G. Don メドハギ (広義)		◎	◎		○	Amano et al. 3138; Kajita YK20063001; Yonekura & Abe 26452	Yasuda 1827, KYO (2003); Ohashi & Tateishi 1667, URO (1978)		国内帰化; 註(7)
<i>Leucaena leucocephala</i> (Lam.) de Wit ギンゴウカン (ギンネム)		◎	◎	◎	◎	Naiki 13576; Naiki et al. 8272, 9071, 9279, 14363, 11744, 17932; Toyama et al. HT1275	Yonekura 7894, TUS (2002); Naito 720176, TUS (1972)	橋城 (2015), 藤吉ほか (2012), 新庄ほか (1993), Ishimine et al. (1992), 新本ほか (1984), 西村ほか (1984), 宮脇ほか (1983)	重点対策外来種、 沖縄県対策種、 世界の侵略的外来種 ワースト100
<i>Macroptilium atropurpureum</i> (DC.) Urb. クロバナツルアズキ		◎	◎	◎	◎	Amano 3343; Toyama et al. HT1555; Yonekura et al. 26641	Amano 1345, URO (2012); Yasuda 510, KYO (2002); J. & H. Murata 25521, URO (1988); Shinjo 8170, URO (1984)		逸出 (牧草・緑肥)

種名	生育確認地区					西表フロラプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中 嶺山				
<i>Macroptilium lathyroides</i> (L.) Urb. ナンバンアカバナアズキ	◎	◎	◎	◎	◎	Akai 12015; Akai & Kin 11598; Toyama & Sashimura HT449; Yonekura & Abe 26358	Yonekura et al. 9822, TUS (2002); Yonekura 98411, TUS (1998); Ohashi & Tateishi 1655, URO (1978)	伊勢田 et al. (1992)	逸出(牧草・緑肥)
<i>Medicago lupulina</i> L. コマツブウマゴヤシ	○	◎			◎	Akai & Kin 11644; Kajita YK19112806; Yonekura et al. 25822	Yonekura 12310, TNS, TUS (2004); Yonekura 98360, TUS (1998)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Medicago polymorpha</i> L. ウマゴヤシ					◎	Amano & Okoshi 3526		Ishimine et al. (1992)	
<i>Melilotus officinalis</i> (L.) Pall. subsp. <i>suaveolens</i> (Ledeb.) H. Ohashi シナガワハギ	◎	◎		◎	◎	Amano & Okoshi 3471; Kajita YK20060807; Naiki et al. 15350; Naiki & Yamamoto 20798	Yonekura & Yasuda 11277, TUS (2004); Yonekura 98361, 98416, TUS (1998)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Mimosa diplotricha</i> C. Wright *オトゲミモザ	◎					Kajita YK20102303			
<i>Mimosa pudica</i> L. オウギソウ	◎	◎	◎		○	Toyama & Kajita HT173; Yonekura et al. 26600	Yonekura 12184, TUS (2004)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Senna corymbosa</i> (Lam.) H.S. Irwin et Barneby *ハナセンナ	◎	◎				Kajita YK20040901; Yonekura et al. 26544			逸出(園芸)
<i>Senna occidentalis</i> (L.) Link ハブソウ		+			+		Ohashi & Tateishi 2010, TI, TUS (1978); Murata & Tabata 629, KYO, TUSG (1974); Furuse 2297, RYU (1973); Naito 720178, TUS (1972)	伊勢田 et al. (1992)	逸出(園芸)
<i>Senna pendula</i> (Humb. et Bonpl. ex Willd.) H.S. Irwin et Barneby コバナセンナ	◎	◎				Kajita YK19110110	Yonekura 12053, TUS (2004); Yasuda 2198, KYO, TNS, TUS (2003); Yasuda 543, KYO (2002)	九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020)	
<i>Senna tora</i> (L.) Roxb. ホソエビスグサ					+		Tateishi & Murata 4713, TI, TUS (1980)		逸出(園芸)
<i>Sesbania cannabina</i> (Retz.) Poir. キバナツノクサネム			◎		◎	Amano & Okoshi 3527; Yonekura & Abe 26382		Ishimine et al. (1992)	逸出(牧草・緑肥)
<i>Stylosanthes guianensis</i> (Aubl.) Sw. スチロサンテス	◎	◎				Akai 12140; Yonekura et al. 26554	Yonekura 11237, TUS (2004)		逸出(牧草・緑肥)
<i>Trifolium repens</i> L. シロツメクサ	◎	◎				Kajita YK19110908		Ishimine et al. (1992)	逸出(牧草)
<i>Vicia hirsuta</i> (L.) Gray スズメノエンドウ					◎	Kajita YK20012603		Ishimine et al. (1992)	国内帰化
<i>Vicia sativa</i> L. subsp. <i>nigra</i> (L.) Ehrh. ヤハズエンドウ					◎	Kajita YK20041901		Ishimine et al. (1992)	国内帰化
<b>Polygalaceae ヒメハギ科</b>									
<i>Polygala paniculata</i> L. コバナヒメハギ	○	◎	◎			Kajita YK20070905; Naiki & Kajita 15372; Toyama & Kajita HT129; Yonekura 26214	Yonekura 12283, TUS (2004); Yonekura & Yasuda 11197, TUS (2004); Yasuda 1199, KYO (2002); Yonekura & Yasuda 9783, TUS (2002)		
<b>Moraceae クワ科</b>									
<i>Broussonetia papyrifera</i> (L.) L'Hér. ex Vent. カンノキ		◎				Naiki & Kajita 18118	Yasuda 1668, TUS (2003); Yasuda 702, TUS (2002); Migo s.n., TUS 45224 (1961)		註(8)
<b>Urticaceae イラクサ科</b>									
<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaudich. var. <i>nivea</i> ナンバンカラムシ	◎			◎	+	Yonekura & Abe 26423	Yonekura 9616, TUS (2002); Yasuda 1146, KYO, TUS (2002); Noshiro & Suzuki 5105, TUS (1987)		
<i>Pilea microphylla</i> (L.) Liebm. *ゴメミズ	○	◎			◎	Naiki & Kajita 18101			
<b>Cucurbitaceae ウリ科</b>									
<i>Luffa aegyptiaca</i> Mill. *ヘチマ	○	◎	◎			Kajita YK20070502			逸出(園芸)
<b>Casuarinaceae モクマオウ科</b>									
<i>Casuarina equisetifolia</i> L. トクサバモクマオウ	○	◎	◎	○	○	Toyama & Kajita HT159		楠城 (2015)	逸出(園芸・防犯); 重点対策外来種; 沖縄県対策種
<b>Oxalidaceae カタバミ科</b>									
<i>Oxalis debilis</i> Kunth subsp. <i>corymbosa</i> (DC.) Bolos et Vigo ムラサキカタバミ	◎	◎			◎	Toyama & Kajita HT131	Gima 204, RYU (1979)	Ishimine et al. (1992)	
<b>Calophyllaceae テリハボク科</b>									
<i>Calophyllum inophyllum</i> L. テリハボク	◎	◎		◎	◎	Naiki et al. 11128, 11702, 13031, 13102, 14367, 19042; Toyama et al. HT1277, HT1471	Naiki 5362, KYO (2003); Fujii et al. TW1w-15061, KYO, TI (1992); Fukuoka & Ito 219, KYO (1981); Kodzumi s.n., KYO (1923); Iwatsuki et al. 691, KYO (1976)	岩瀬・乙橋 (2016), 新本ほか (1989), 宮脇ほか (1983), Walker (1976)	註(9)
<b>Clusiaceae フクギ科</b>									
<i>Garcinia subelliptica</i> Merr. フクギ	◎	◎	◎	◎	◎	Naiki 12268; Naiki & Toyama 12792, 12812; Naiki & Yamamoto 20021; Naiki et al. 7220, 7380, 7485, 7691, 7760, 8200, 8283, 8374, 8452, 8586, 9177, 9294, 9345, 9471, 9601, 9839, 9927, 10281, 10488, 10605, 10734, 11137, 11598, 11727, 12161, 12166, 12410, 12975, 13021, 14180, 14395, 14784, 15042, 15312, 15890, 16069, 16291, 16357, 16685, 16743, 17191, 17433, 17738, 17967, 18522, 18658, 18781, 18907, 19095, 19252, 19419, 19749, 19940, 20376, 20803, 22771, 23021; Shitara et al. SH175, SH249, SH375, SH1510; Toyama HT898; Toyama et al. HT13, HT198, HT397, HT602, HT660, HT753, HT1223, HT2020, HT2229; Yamamoto et al. TY1657, TY1818, TY1899, TY2437	Naiki et al. IR308 (2014); Shinjo 8173, URO (1984)	仲里 (2011), 新本ほか (1989), Walker (1976)	註(9)
<b>Passifloraceae トケイソウ科</b>									
<i>Passiflora edulis</i> Sims *クダモノケイソウ					◎	Amano et al. 3305; Shitara et al. SH1396			逸出(園芸)
<i>Turnera ulmifolia</i> L. *キバナツルネラ	◎	◎			◎	Naiki et al. 15352			逸出(園芸)



種名	生育確認地区					西表フロラプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中				
<b>Euphorbiaceae トウダイグサ科</b>									
<i>Acalypha wilkesiana</i> Müll.Arg. アカリファ	◎				○	Kajita YK20041701	Furuse 4260, RYU (1973)		逸出(園芸)
<i>Euphorbia cyathophora</i> Murray *ショウジョウソウ	◎	◎			◎	Amano & Okoshi 3562; Toyama & Kajita HT169; Yonekura et al. 26546			逸出(園芸)
<i>Euphorbia graminea</i> Jacq. *カワリトウダイ	◎	◎	◎			Yonekura et al. 25724; Yonekura & Abe 26383 & 26398			
<i>Euphorbia hirta</i> L. シマニシキソウ	○	◎	○	○	◎	Amano & Okoshi 3210; Kajita YK19113004, YK19113005; Toyama & Kajita HT148	Yonekura 12300, TUS (2004); Yasuda 631, KYO, TUS (2002); Yonekura 96402, TUS (1998); Shimabuku & Miyagi 5651, RYU (1984); Tateishi & Murata 4716, TI, TUS (1980); Naito 720118, TUS (1972)	黒沢 (2001), 新里ほか (1993), Ishimine et al. (1992), 西村ほか (1984), Walker (1976)	
<i>Euphorbia heterophylla</i> L. ショウジョウソウモドキ	◎	◎			◎	Amano & Okoshi 3275; Naiki & Yamamoto 20612; Yonekura & Abe 26385 & 26473	Yonekura 11240, TUS (2004)		
<i>Euphorbia hypericifolia</i> L. オキギリバニシキソウ	◎				◎	Amano & Okoshi 3529; Kajita YK19113003; Naiki & Kajita 15710	Yasuda 652, KYO, TNS (2002); Yonekura et al. 98082, 98254, TUS (1998); Kubo 12, TI, TUS (1979); Shimabuku 4320, RYU, TUS (1978); Ikeda 4953, KAG (1978)		註(10)
<i>Euphorbia hyssopifolia</i> L. セイタカオオニシキソウ	◎	◎	◎	◎		Akai 12098, 12099, 12013; Amano & Okoshi 3202, 3464; Kajita YK19113001; Naiki & Kajita 15370a, 18095, 18109; Yonekura 26215	Yonekura & Yasuda 11201, TUS (2004); Yasuda 252, TNS, TUS (2002); Yonekura & Yasuda 9741, TUS (2002); Kurosawa & Matsumura 20022, TUS (1998); Ikeda 4952, KAG, RYU (1978)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Euphorbia maculata</i> L. コニシキソウ	◎					Akai 11961	Kimura & Hurusawa s.n., TI (1940)	黒沢 (2001), Ishimine et al. (1992)	
<i>Euphorbia makinoi</i> Hayata コバニシキソウ	○	◎			◎	Kajita YK20071004, YK20071101, YK20071601, YK20071602	Yonekura 12311, TUS (2004); Yonekura 96443, TUS (1998); Kurosawa & Matsumura 20021, TUS (1998)	黒沢 (2016a, 写真1998), 黒沢 (2001)	
<i>Euphorbia prostrata</i> Aiton ハイニシキソウ	○	◎			○	Kajita YK20071001, YK20071302; Toyama et al. HT1453	Yonekura 12311, TUS (2004); Yonekura 98365, TUS (1998); Murata & Tabata 851, KYO (1974); Naito et al. 74419, TUS (1974); Migo s.n., TUS 39568 (1962); Hatusima 23041, KAG (1958); Takamine s.n., KAG 11869, RYU 44619 (1950); Kimura & Hurusawa s.n., TI (1940)	黒沢 (2016a, 写真1998), 黒沢 (2001), Ishimine et al. (1992)	
<i>Euphorbia thymifolia</i> L. イリオモテニシキソウ	◎					Kajita YK20070809, YK20071201, YK20071202, YK20071303	Yonekura & Yasuda 11203, TUS (2004); Yasuda 1933, TUS (2003); Miyagi 8307, TI, KAG, TUSG, RYU, URO (1980); Furuse 4399, RYU (1973); Hatusima 32996, RYU (1972); Kimura & Hurusawa s.n., TI (1940); Kawagoe s.n., KAG 12221 (1919); Tashiro s.n., TI (1887)	黒沢 (2016a, 写真1998), 黒沢 (2001), Ishimine et al. (1992)	
<i>Jatropha integerrima</i> Jacq. テイキンザクラ	◎					Kajita YK20071705			九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020)
<i>Ricinus communis</i> L. *トウゴマ	○				◎	Amano 3357			
<b>Phyllanthaceae コミカンソウ科</b>									
<i>Phyllanthus amarus</i> Schumach. キダチコミカンソウ	◎	◎	◎	◎	○	Kajita YK19122403; Yonekura & Abe 26430; Yonekura et al. 26560	Yonekura 12324, TUS (2004); Yonekura 9568, TUS (2002); Yonekura & Yasuda 9739, TUS (2003)	黒沢 (2016b, 写真1998)	
<i>Phyllanthus debilis</i> J.G.Klein ex Willd. オガサワラコミカンソウ	◎	◎	◎		◎	Akai 11933, 12072; Akai & Kin 11640; Kajita YK19122402; Yonekura & Abe 26455	Yonekura 9567, TUS (2002); Yonekura 98366, TUS (1998)		
<i>Phyllanthus reticulatus</i> Poir. シマコバンノキ									
<i>Phyllanthus tenellus</i> Roxb. ナガエコミカンソウ	◎	◎			◎	Akai 11994; Kajita YK19122401	Noshiro & Suzuki 5043, TUS (1987); Shinjo 5401, URO (1968); Migo s.n., TUS 44945 (1962); Shinjo 1081, URO (1957)	黒沢 (2016b, 写真1987), Kurosawa (2001)	在来とする見解もある
<b>Geraniaceae フウロソウ科</b>									
<i>Geranium carolinianum</i> L. *アメリカフウロ	◎	◎			○	Toyama & Kajita HT153; Toyama et al. HT1554			
<b>Combretaceae シクンシ科</b>									
<i>Combretum indicum</i> (L.) DeFilipps シクンシ	◎					Kajita YK19110111, YK20072801, YK20072802; Yonekura & Abe 26393	Niro & Miyagi 6418, RYU (1974); Oka 16992, KAG (1961); Takaki s.n., KAG (1968); Amano s.n., RYU 25190 (1948)	Walker (1976)	学名(属名)は Maurin et al. (2020) に従った
<b>Lythraceae ミソハギ科</b>									
<i>Ammannia baccifera</i> L. *シマミソハギ	◎	◎				Akai 12118; Yonekura & Abe 26419			
<i>Ammannia coccinea</i> Rottb. *ホソバヒメミソハギ	◎					Akai 12126; Kajita YK19101517			
<b>Onagraceae アカバナ科</b>									
<i>Ludwigia decurrens</i> Walter *ヒレタゴボウ	◎					Akai 11881, 11955, 12004; Naiki 12172; Yonekura et al. 26637			
<i>Oenothera laciniata</i> Hill コマツヨイグサ	◎	◎	◎		◎	Kajita YK20040804, YK20063002, YK20063003, YK20063005; Naiki & Kajita 11691; Shitara SH1702; Toyama & Sashimura HT418bis; Yonekura 26226			岩瀬・乙種 (2016)
<i>Oenothera speciosa</i> Nutt. var. <i>childsii</i> (L.H.Bailey) Munz モモイロヒルザキツキミノソウ	◎					Kajita YK20071704		Ishimine et al. (1992)	
<i>Oenothera rosea</i> L'Hér. ex Aiton ユウゲショウ	◎				◎	Naiki et al. 16205	Yonekura & Yasuda 11195, TUS (2004)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Oenothera tetrapectera</i> Cav. *ツキミノソウ	◎					Kajita YK20041601			
<b>Myrtaceae フトモモ科</b>									
<i>Psidium guajava</i> L. ハンシロウ	+	◎	◎	◎	◎	Naiki et al. 11743; Shitara & Kajita SH326	Noshiro 5138, TUS (1987); Naito 831166, TUS (1983); Naito et al. 74425, TUS (1974)	新里ほか (1993), Ishimine et al. (1992), Walker (1976)	
<i>Syzygium jambos</i> (L.) Alston フトモモ	+	◎	◎	◎	◎	Naiki 11391, 13764; Naiki et al. 7213, 7326, 9649, 9832, 10395, 10493, 11051, 11188, 12341, 13331, 13887, 15713, 16024, 16131, 16582, 17200, 17680, 18395, 18881, 18981, 19469, 19596, 19795, 20895, 22710, 22732, 23060, 23062; Toyama et al. HT647, HT719, HT989, HT1548; Shitara et al. SH132, SH1461, SH338; Yamamoto et al. TV1621, TY2080	Yonekura & Yasuda 11255, TUS (2004); Yonekura 9653, TUS (2002); Kobayashi 3680, MBK, TUS (2000); Ibaragi & Ogawa 1403026, TUS (2000); Noshiro et al. TWtw-17337, TI, TUS (1998); Tateishi & Matsuda 44735, URO (1997); Mochida 73003, TUS (1973); Hatusima 34574, RYU (1973); Takahashi s.n., TUS 92992 (1969); Yamazaki et al. 10890, TI, TUSG (1968); Migo s.n., TUS 3323 (1962); Shinjo 1109, URO (1957)	新本ほか (1989)	

種名	生育確認地区					西表フロロプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中				
<b>Sapindaceae ムクロジ科</b>									
<i>Cardiospermum halicacabum</i> L. var. <i>microcarpum</i> (Kunth) Blume コフウセンカズラ					◎	Akai 12092		Ishimine et al. (1992)	
<b>Malvaceae アオイ科</b>									
<i>Abelmoschus moschatus</i> Medik. リュウキュウトロアオイ	◎	◎	◎	◎	○	Akai 12095; Amano et al. 3434; Amano & Okoshi 3570; Kajita YK19110105; Naiki et al. 15386; Toyama et al. HT953	Naio 720199, TUS (1972); Miyagi 10079, RYU (1976)	Ishimine et al. (1992)	逸出 (圏表)
<i>Corchorus aestuans</i> L. シマツナソ		◎			○	Kajita YK19100601	Naio et al. 74212, TUS (1974); Furuse 761, RYU (1972)		
<i>Hibiscus rosa-sinensis</i> L. *プツツウゲ	◎	◎			◎	Toyama et al. HT1010; Kajita YK20101701; Yonekura & Abe 26442, 26534			逸出 (圏表)
<i>Malvastrum coromandelianum</i> (L.) Garcke エノキアオイ	◎	○				Kajita YK19110905	Naio et al. 74417, TUS (1974)	新里ほか (1993)	
<i>Sida acuta</i> Burm.f. *ソバキンゴジカ					◎	Yonekura & Abe 26472			
<i>Sida rhombifolia</i> L. subsp. <i>rhombifolia</i> キンゴジカ	◎	◎	◎	○	◎	Kajita YK20070101; Naiki et al. 15335; Yonekura & Abe 26372 & 26401	Yonekura 9666, TUS (2002); Kobayashi 3339, MEK, TUS (1993); Yonekura et al. 98084, 98275, TUS (1998); Shimabuku & Miyagi 5632, RYU, TUS (1984)	西村ほか (1984), 新里ほか (1993)	
<b>Caricaceae パパイア科</b>									
<i>Carica papaya</i> L. パパイア	◎	◎	◎	○	◎	Kajita YK20070904; Naiki et al. 8211, 8305, 8399, 8432, 8558, 8719, 9300, 14185, 23036; Toyama & Kajita HT112; Yonekura & Abe 26355	Yonekura 9661, TUS (2002); Yonekura et al. 98269, TUS (1998); Naio 720189, TUS (1972)	九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020)	逸出 (圏表)
<b>Brassicaceae アブラナ科</b>									
<i>Lepidium virginicum</i> L. マメゲンバイナズナ		◎			◎	Kajita YK20022005; Naiki et al. 16214; Yonekura & Abe 25857		Ishimine et al. (1992)	
<i>Lobularia maritima</i> (L.) Desv. ニワナズナ				+			Yonekura 7891, TUS (2002)		逸出 (圏表)
<i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>hortensis</i> Backer f. <i>raphanistroides</i> Makino ハマダイコン	○	◎			◎	Naiki et al. 16221	Yasuda 3120, KYO (2004); Yonekura 12202, TUS (2004); Yonekura 98437, TUS (1998); Ikeda 5034, RYU (1978); Naio 720102, TUS (1972)		
<b>Polygonaceae タデ科</b>									
<i>Antigonon leptopus</i> Hook. et Arn. ニトベカズラ		+			○	(目視確認のみ)	Kumagai 1, TUS (1995)		逸出 (圏表)
<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>nigricans</i> (Hook.f.) Rech.f. ハマコギシギシ		+					Yonekura 98389, TUS (1998)	Yonekura (2007)	
<b>Caryophyllaceae ナデシコ科</b>									
<i>Gypsophila elegans</i> M.Bieb. カスミソウ			+				Yonekura 7892, TUS (2002)		逸出 (圏表)
<i>Atocion armeria</i> (L.) Raf. ムシトリナデシコ				+			Yasuda 679, KYO, TNS (2002)		逸出 (圏表)
<b>Amaranthaceae ヒユ科</b>									
<i>Alternanthera denticulata</i> R.Br. ソノツルノゲイトウ							Kajita YK20022006, YK20022007		逸出 (圏表)
<i>Alternanthera ficoidea</i> (L.) P.Beauv. *モウユビ	◎								
<i>Alternanthera sessilis</i> (L.) R.Br. ex DC. ツルノゲイトウ	◎	◎	◎	◎		Akai 11610; Amano & Okoshi 3163 & 3212; Kajita YK19101511; Naiki & Kajita 15086	Yonekura & Yasuda 9748, TUS (2002); Furuse 762, RYU (1972)	宮崎 (2018), Ishimine et al. (1992)	
<i>Amaranthus blitum</i> L. イヌビユ							Miyagi 8371, RYU (由布島)	Ishimine et al. (1992)	註(11)
<i>Amaranthus powellii</i> S.Watson ホナガアオゲイトウ			+	+			Yasuda 680, KYO, TNS (2002); Naio 720110, TUS (1972)		註(12)
<i>Amaranthus spinosus</i> L. ハリビユ		+	+	+	○	(目視確認のみ)	Yasuda 1349, KYO (2003); Tateishi & Murata 46874, TI, TUS (1980); Naio 720120, TUS (1972)	Ishimine et al. (1992)	
<i>Amaranthus viridis</i> L. ホナガイヌビユ	◎			◎	◎	Kajita YK20011305, YK20011701; Shitara & Kajita SH312	Yasuda 354, KYO (2002); Yonekura et al. 9824, TUS (2002); Yonekura 98425, TUS (1998); Murata et al. 56522, KYO (1986); Tateishi & Murata 46878, TI, TUS (1980); Niro & Miyagi 6416, RYU (1974)		
<i>Celosia argentea</i> L. ノゲイトウ	◎		◎	○	○	Shitara & Kajita SH32; Yonekura & Abe 26384	Yonekura 12317, TUS (2004); Yonekura 98363, TUS (1998)	Ishimine et al. (1992), Masamune (1955b)	
<b>Nyctaginaceae オシロイバナ科</b>									
<i>Mirabilis jalapa</i> L. *オシロイバナ	◎						Kajita YK19101514		逸出 (圏表)
<b>Talinaceae ハゼラン科</b>									
<i>Talinum paniculatum</i> (Jacq.) Gaertn. ハゼラン	◎						Kajita YK20020901; Yonekura 26476	Ishimine et al. (1992)	逸出 (圏表)
<b>Portulacaceae スペリヒユ科</b>									
<i>Portulaca pilosa</i> L. ヒメマツハボタン	◎	◎	◎	◎			Akai 11908, 11944; Amano 3362; Naiki & Kajita 17641	Yasuda 1794, KYO (2003); Shirjo 1061, URO (1957)	重点対策外表種・沖縄県対策種
<b>Primulaceae サクラソウ科</b>									
<i>Lysimachia arvensis</i> (L.) U.Manns et Anderb. var. <i>caerulea</i> (L.) Turland et Bergmeier ルリハコベ	◎	◎			○	Kajita YK20012502, YK20040805, YK20040806	Yonekura 98432, TUS (1998); Okada & Ueda 2102, KYO, RYU (1979); Naio 720201, TUS (1972); Migo s.n., TUS 40383 (1962)	Ishimine et al. (1992), 高橋 (1952), Masamune (1955a)	
<b>Sapotaceae アカテツ科</b>									
<i>Pouteria campechiana</i> (Kunth) Baehni *クダモノタマゴ(カニステル)	◎						Kajita YK20102301, YK20102302		逸出 (圏表)
<b>Rubiaceae アカネ科</b>									
<i>Dentella repens</i> (L.) J.R.Forst. et G.Forst. *タイワンミズハコベ	◎						Kajita YK20040802, YK20060802		
<i>Mitracarpus hirtus</i> (L.) DC. ハリフタバモドキ	◎	◎			◎	Akai 11931, 12008; Amano & Furumoto 3029; Amano & Okoshi 3203; Kajita YK20041301; Shitara SH1701; Yonekura 26217; Yonekura & Abe 26457; Yonekura et al. 26555	Yonekura 12284, TUS (2004)		

種名	生育確認地区					西表フロラプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高那	古見	南風見 中				
<i>Oldenlandia corymbosa</i> L. *タマザキフタバムグラ	◎	◎				Kajita YK19070101, YK20040801, YK20060903, YK19101508; Yonekura & Abe 26194			
<i>Spermacoce alata</i> Aubl. *ヒロハフタバムグラ				◎		Yonekura 26219; Yonekura & Abe 26380			
<i>Spermacoce remota</i> Lam. ナガバハリフタバ	◎	◎	◎	◎	○	Akai 11932, 12018; Akai & Kin 11661; Amano & Okoshi 3206; Naiki & Kajita 15371; Toyama & Kajita HT124; Toyama & Sashimura HT407; Yonekura 21216	Yonekura 12301, TUS (2004); Yonekura & Yasuda 11202, TUS (2004); Yonekura 98380, TUS (1998); Yonekura et al. 58080, TUS (1998)		
<b>Apocynaceae キョウテクトウ科</b>									
<i>Allamanda cathartica</i> L. *アリアケカズラ		◎				Naiki et al. 11753			逸出 (園芸)
<i>Asclepias curassavica</i> L. トウワタ		◎				Kajita YK20011702	Miyagi 9299, RYU, URO (1980); Naito 720174, TUS (1972); Migo s.n., TUS 427445 (1961)		逸出 (園芸)
<i>Catharanthus roseus</i> (L.) G. Don ニチニテソウ	○	◎			○	Kajita YK20102801	Naito 720175, TUS (1972)		逸出 (園芸)
<b>Convolvulaceae ヒルガオ科</b>									
<i>Argyrea nervosa</i> (Burm.f.) Bojer ギンヨウアサガオ		◎				Naiki & Kajita 17653	Yasuda 2034, TUS (2003); Yonekura 9614, 米倉(2017, 写真2007) TUS (2002)		逸出 (園芸)
<i>Ipomoea aquatica</i> Forssk. ヨウサイ		◎	◎			Akai 12030; Yonekura & Abe 26450	Yasuda 323, KYO, TUS (2002)		逸出 (園芸)
<i>Ipomoea bilflora</i> (L.) Pers. ネコアサガオ		◎				Kajita YK20041201; Yonekura & Abe 26397	Nairo 982, RYU (1958)		註(13)
<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Lam. サツマイモ		+					Yonekura 9619, TUS		逸出 (園芸)
<i>Ipomoea cairica</i> (L.) Sweet *モミジヒルガオ	○	◎				Shtara & Kajita SH322			重点対策外来種 沖縄県対策種
<i>Ipomoea obscura</i> (L.) Ker Gawl. *ヒメアサガオ		◎				Kajita YK20021302			
<i>Ipomoea quamoclit</i> L. ルコウソウ					+		Naito 720182, TUS (1972)		逸出 (園芸)
<i>Ipomoea triloba</i> L. ホシアサガオ		◎	◎	○	◎	Amano & Okoshi 3571; Toyama et al. HT1457; Yonekura & Abe 26370		Walker (1976)	
<i>Merremia gemella</i> (Burm.f.) Hallier f. *ヒメコガネヒルガオ			◎			Amano 3358; Kajita YK19110101; Yonekura et al. 26543			註(14)
<i>Merremia peltata</i> (L.) Merr. *ハスノハヒルガオ		◎				Kajita YK20021303			
<i>Merremia umbellata</i> (L.) Hallier f. ミミバフサアサガオ(広義)		◎	◎			Amano 3360; Kajita YK19122202; Yonekura & Abe 26447, 26741	Yonekura & Yasuda 11248, TUS (2004)	植村ほか (2015)	註(15)
<i>Operculina turpethum</i> (L.) Silva Manso フウセンアサガオ		◎	◎	◎		Amano 3359; Kajita YK19110104	Yonekura & Yasuda 11251, TUS (2004); Yasuda 1369, KYO, TUS (2003); Yonekura 98320, TUS (1998)	米倉 (2017, 写真2008), Yamazaki (1993)	
<b>Solanaceae ナス科</b>									
<i>Cestrum nocturnum</i> L. *ヤコウカ		◎				Shtara & Kajita SH334			逸出 (園芸)
<i>Physalis angulata</i> L. var. <i>angulata</i> *ヒロハワリンホオズキ	◎	◎	◎			Kajita YK20070906; Toyama & Kajita HT1314; Yonekura 26225	Yonekura 9597, TUS (2002); Yonekura & Ishimine et al. (1992), Walker Yasuda 9740, TUS (2002); Shinjo 8385, URO (1981)	Ishimine et al. (1992), Walker (1976)	
<i>Physalis pubescens</i> L. *ヒメセンナリホオズキ			◎			Amano & Okoshi 3569			
<i>Solanum lycopersicum</i> L. var. <i>cerasiforme</i> (Dunal) Fosberg *ママト(ミニトマト)		◎				Kajita YK20070903			逸出 (園芸)
<i>Solanum americanum</i> Mill. テリミノナスホオズキ		◎				Kajita YK20011004; Naiki et al. 7004; Shtara & Kajita SH431	Shimoda 760, TUS (1981); Tateishi & Murata 4684, TI, TUS (1980)	Ishimine et al. (1992, as <i>S. alatum</i> )	
<i>Solanum emulans</i> Raf. アメリカイヌホオズキ	○				◎	Kajita YK19112804	Yonekura & Yasuda 11267, TUS (2004); Naito 720103, TUS (1972)		
<b>Plantaginaceae オオバコ科</b>									
<i>Mecardonia procumbens</i> (Mill.) Small *キバナオトメアゼナ		◎				Kajita YK19110907			
<i>Plantago lanceolata</i> L. ヘラオオバコ		+					Yasuda 4100, TNS (2005); Shimabuku & Myagi 10252, URO (1984)		
<i>Plantago virginica</i> L. *ツボミオオバコ		◎				Naiki & Kajita 11698			
<i>Russelia equisetiformis</i> Schtdtl. et Cham. ハナチヨウジ		◎				Kajita YK19110108	Yonekura 12052, TUS (2004)		逸出 (園芸)
<i>Scoparia dulcis</i> L. *セイタカカナビキソウ					◎	Amano & Abe 3059; Naiki & Yamamoto 20611			
<i>Veronica peregrina</i> L. ムシクサ(広義)	◎	◎		○	◎	Akai & Kin 11614; Amano & Okoshi 3469; Shtara & Kajita SH23	Yonekura 12308, TUS (2004); Yonekura & Yasuda 11199, TUS (2004)	Ishimine et al. (1992)	国内帰化
<b>Acanthaceae キツネノマゴ科</b>									
<i>Asystasia gangetica</i> (L.) T. Anderson subsp. <i>gangetica</i> *コロマンソウ		◎			○	Kajita YK19110112			逸出 (園芸)
<i>Odontonema strictum</i> (Nees) Kuntze ベニツツバナ		◎				Kajita YK19111503	Yonekura 9631, TUS (2002)		逸出 (園芸)
<i>Ruellia simplex</i> C. Wright *ヤナギハライソウ		◎	◎		○	Shtara & Kajita SH441			その他の総合対策 外来種。沖縄県対 策種
<i>Ruellia squarrosa</i> (Fenzl) Cufod. *ケブルイソウ		◎			○	Kajita YK19102401			逸出 (園芸)
<i>Strobilanthes reptans</i> (G. Forst.) Moylan ex Y.F. Deng et J.R.I. Wood *ヒロハサギゴケ(広義)		◎				Kajita YK20071703; Toyama et al. HT1557			逸出 (園芸)。宮古 島自生の(ミヤコジ マノウとも呼ばれる) 系統と異なる
<b>Verbenaceae クマツヅラ科</b>									
<i>Lantana camara</i> L. subsp. <i>aculeata</i> (L.) R.W. Sanders シチヘンゲ	○	◎		○	○	Shtara & Kajita SH440	Yonekura 98447, TUS (1998); Ikeda 5042, RYU (1978)		重点対策外来種。 沖縄県対策種

種名	生育確認地区					西表フロラボプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高郡	南風見 古見	南風見 中山				
<i>Stachytarpheta jamaicensis</i> (L.) Vahl フトボナガソウ	◎	◎			◎	<i>Naiki &amp; Kajita</i> 17642; <i>Naiki et al.</i> 15347; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH29; <i>Yonekura et al.</i> 25099; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26454	<i>Tateishi &amp; Matsuda</i> 44711, URO (1997); <i>Myagi</i> 9978, RYU (1976)	九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020)	その他の総合対策外来種。沖縄県対策種
<i>Stachytarpheta urticifolia</i> Sims ナガボソウ	○	◎	○	◎	○	<i>Kajita</i> YK20103001	<i>Kokubugata</i> 1569, TNS (2003); <i>Yonekura et al.</i> 98088, TUS (1998); <i>Matsumura</i> 739, TUS (1995)	九州森林管理局西表森林生態系保全センター (2020, as <i>S. dichotoma</i> ), <i>Ishimine et al.</i> (1992, as <i>S. dichotoma</i> )	その他の総合対策外来種。沖縄県対策種
<i>Verbena brasiliensis</i> Vell. アレチハナガサ		○			◎	<i>Naiki et al.</i> 15349		新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992)	註(16)
<i>Verbena x incompta</i> P.W.Michael ダキバアレチハナガサ				◎	◎	<i>Naiki et al.</i> 15348; <i>Yonekura</i> 26206; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26130	<i>Yasuda</i> 2584, KYO, TUS (2004)		
<i>Verbena litoralis</i> Kunth ハマクマツツラ	○	◎			◎	<i>Akai</i> 12089; <i>Kajita</i> YK20030602; <i>Toyama &amp; Sashimura</i> HT452	<i>Amano</i> 1344, URO (2012); <i>Yonekura</i> 9603, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98307, TUS (1998); <i>Yonekura et al.</i> 98070, TUS (1998)		
<b>Lamiaceae シソ科</b>									
<i>Hyptis brevipes</i> Poit. ナントウイガニガクサ					◎	<i>Naiki et al.</i> 15339		Masamune (1955b)	
<b>Linderniaceae アゼナ科</b>									
<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell subsp. <i>dubia</i> タケアゼナ	◎					<i>Yonekura &amp; Abe</i> 26415		宮崎 (2018)	
<b>Campanulaceae キキョウ科</b>									
<i>Hippobroma longiflora</i> (L.) G.Don *ホシアザミ					◎	<i>Kajita</i> YK20080402			逸出 (園芸)
<b>Asteraceae キク科</b>									
<i>Ageratum conyzoides</i> L. カッコウアザミ	◎	◎	◎	○	○	<i>Toyama &amp; Kajita</i> HT1146; <i>Yonekura</i> 25855; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26427	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9770, TUS (2002); <i>Yasuda</i> 32, KYO, TUS (2002); <i>Yonekura et al.</i> 98282, TUS (1998); <i>Suzuki s.n.</i> , KAG (1980); <i>Gima</i> 156 & 265, RYU (1979); <i>Naito et al.</i> 74204, TUSG (1974); <i>Naito</i> 720124, TUS (1972); <i>Naito s.n.</i> , KAG 0609522 (1940)	新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992), 西村ほか (1984)	その他の総合対策外来種。沖縄県対策種
<i>Ageratum houstonianum</i> Mill. ムラサキカッコウアザミ					◎	<i>Yonekura</i> 26205		<i>Ishimine et al.</i> (1992)	その他の総合対策外来種
<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>pilosa</i> コセンダングサ							<i>Naito et al.</i> 74416, TUS (1974)	<i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> Sch.Bip. オオバナノセンダングサ	○	◎	○	◎	◎	<i>Akai &amp; Kin</i> 11641; <i>Kajita</i> YK20040808; <i>Naiki et al.</i> 8472, 10641; <i>Toyama &amp; Kajita</i> HT111, <i>Toyama et al.</i> HT1454	<i>Yonekura</i> 12192, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 98319, TUS (1998); <i>Yonekura et al.</i> 98244, TUS (1998)	岩瀬・乙幡 (2016), 新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992)	註(17)
<i>Centratherum punctatum</i> Cass. *ルリアザミ	◎	◎	○			<i>Kajita</i> YK19110115			逸出 (園芸)
<i>Coreopsis tinctoria</i> Nutt. ハルシヤギク			+				<i>Yonekura</i> 12063, TUS (2004)		逸出 (園芸)
<i>Crassocephalum crepidioides</i> (Benth.) S. Moore ペニバナボロギク	○	◎		◎	◎	<i>Akai</i> 12093, 12141; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH48	<i>Yonekura</i> 11242, TUS (2004); <i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9769, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98372, TUS (1998); <i>Naito</i> 831141, TUS (1983); <i>Naito</i> 720101, TUS (1972)	新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992), 東・金城 (1981), 高嶺 (1965)	
<i>Elephantopus mollis</i> Kunth シロバナイカゴウゾリナ	◎	◎	◎	◎		<i>Akai</i> 11591; <i>Amano et al.</i> 3421; <i>Kajita</i> YK19121603; <i>YK19121604</i> ; <i>Naiki et al.</i> 10805; <i>Toyama &amp; Kajita</i> HT167; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26716	<i>Yonekura</i> 9626, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98338, TUS (1998); <i>Yonekura et al.</i> 98120, TUS (1998)	新里ほか (1993), 米盛 (1979)	
<i>Emilia fosbergii</i> Nicolson ナンカイウスベニコガナ	◎		◎	◎	◎	<i>Akai</i> 12141; <i>Amano &amp; Okoshi</i> 3280; <i>Yonekura et al.</i> 26566	<i>Yasuda</i> 2184, KYO, TUS (2003); <i>Murata et al.</i> 56497, KYO, TUS (1986); <i>Myagi</i> 9095, RYU (1980)	新里ほか (1993, as <i>E. javanica</i> ), <i>Ishimine et al.</i> (1992, as <i>E. javanica</i> )	
<i>Erechites hieracifolius</i> (L.) Raf. ex DC. var. <i>cacalioides</i> (Fisch. ex Spreng.) Griseb. ウシノタケダグサ	◎	◎	○	○	○	<i>Akai</i> 12036; <i>Toyama &amp; Kajita</i> HT161	<i>Yonekura</i> 11241, TUS (2004); <i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 11270, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 98318, TUS (1998); <i>Ikada</i> 5005, KAG, RYU (1978)	<i>Ishimine et al.</i> (1992), 東・金城 (1981)	
<i>Erigeron bellioides</i> DC. *コケセンボシギクモドキ		◎			◎	<i>Amano</i> 3448; <i>Kajita</i> YK20011003; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26465			
<i>Erigeron pusillus</i> Nutt. ケナンヒメムカンヨモギ		+			+		<i>Yasuda &amp; Yonekura</i> 1137, KYO, TNS (2002); <i>Hatusima</i> 32813, RYU (1972)		註(18)
<i>Erigeron sumatrensis</i> Retz. オオアレチノギク	○	◎	◎	○	◎	<i>Kajita</i> YK20011901; <i>Naiki et al.</i> 17643, 16213; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26381	<i>Yasuda</i> 2189, KYO, TUS (2003); <i>Yasuda</i> 755, TNS (2002); <i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9789, TUS (2002); <i>Yonekura et al.</i> 98083, TUS (1998)	新里ほか (1993, as <i>E. javanica</i> ), <i>Ishimine et al.</i> (1992, as <i>E. floridulus</i> ), 西村ほか (1984)	
<i>Gaillardia pulchella</i> Foug. テンニギク		○				(目視確認のみ)	<i>Naito et al.</i> 74423, TUS (1974)		逸出 (園芸)
<i>Gamochaeta pensylvanica</i> (Willd.) Cabrera チチヨグサモドキ	◎	+			◎	<i>Kajita</i> YK20040803; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 25860	<i>Furuse</i> 2285, RYU (1973); <i>Migo s.n.</i> , TUS 3963 (1962)	高嶺 (1952, as <i>Gnaphalium purpureum</i> )	
<i>Gynura bicolor</i> (Roxb. ex Willd.) DC. スイゼンジナ		+					<i>Furuse</i> 5486, RYU (1974)		逸出 (園芸)
<i>Mikania micrantha</i> Kunth ツルヒコドリ	◎		○			<i>Kajita</i> YK20030103		沖縄県 (2020)	特定外来生物。緊急対策外来種。沖縄県重点対策種。世界の根絶的外来種ワースト100
<i>Praxelis clematidea</i> (Hieron. ex Kuntze) R.M.King et H.Rob. ヒマワリカニコウ (新種)	◎	◎	◎	◎	◎	<i>Akai</i> 11962; <i>Akai &amp; Kin</i> 11630; <i>Yonekura</i> 25854, 26128, 26204, 26227; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26439, 26456 & 26463; <i>Yonekura et al.</i> 26985	<i>Yasuda</i> 2778, TUS (2004)		
<i>Solidago altissima</i> L. セイタカアワダテソウ	○	○	◎		◎	<i>Kajita</i> YK19110109, YK19112801, YK19112802	<i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9787, TUS (2002)		
<i>Soliva anthemifolia</i> (Juss.) R.Br. イタキソウ		+					<i>Nakamura</i> 34, RYU (1973); <i>Furuse</i> 1944, RYU (1972)		初島・天野 (1977)
<i>Sonchus asper</i> (L.) Hill オニノゲシ		◎			◎	<i>Kajita</i> YK19112807; <i>Naiki et al.</i> 16209	<i>Yasuda</i> 2387, KYO, TUS (2004)	<i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Sonchus oleraceus</i> L. ノゲシ	◎	◎		○	◎	<i>Akai</i> 12075; <i>Kajita</i> YK19112808	<i>Yonekura</i> 12309, TUS (2004); <i>Yonekura et al.</i> 9819, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98364, TUS (1998)	<i>Ishimine et al.</i> (1992)	
<i>Sphagneticola trilobata</i> (L.) Pruski アメリカハマグルマ	◎	◎	○	○	◎	<i>Akai</i> 11972; <i>Shitara &amp; Kajita</i> SH307	<i>Sugihara</i> 3, TUS (2007); <i>Yonekura</i> 12060, TUS (2004); <i>Yonekura</i> 9683, TUS (2002); <i>Kumagai</i> 14, TUS (1995)	宮崎 (2018), 岩瀬・乙幡 (2016), 梶田 (2016)	緊急対策外来種。沖縄県重点対策種。竹富町指定種
<i>Symphytotrichum subulatum</i> (Michx.) G.L.Nesom var. <i>squamatum</i> (Spreng.) S.D.Sundb. ヒロハホウキギク	◎	◎		○	○	<i>Toyama &amp; Kajita</i> HT172; <i>Yonekura &amp; Abe</i> 26429	<i>Yonekura</i> 9601, TUS (2002); <i>Yonekura &amp; Yasuda</i> 9789, TUS (2002); <i>Yonekura</i> 98372, TUS (1998); <i>Murata et al.</i> 56508, KYO, TUS (1986)	新里ほか (1993), <i>Ishimine et al.</i> (1992)	



種名	生育確認地区					西表フロラボプロジェクト 採集標本 (2016.4-2020.12)	それ以前の 採集標本	一次文献資料 (論文・学術報告・書籍 ・行政による報告書)	備考
	西表	上原	高部	古見	南風見 中 南風見 嶺山				
<i>Synedrella nodiflora</i> (L.) Gaertn. フシギソウ	○	◎	+	+	+	Akai 11981, Amano & Okoshi 3530; Yonekura et al. 26548, 26773	Yonekura & Yasuda 12226, TUS (2004); Yonekura 9708, TUS (2002); Myagi 9294, RYU, UPO (1980); Naito 720107, TUS (1972); Hatusima 32897, RYU (1972); Kawagoe 9076, KAG (1919)		
<i>Taraxacum officinale</i> Weber ex F.H.Wigg. セイウタンポポ	+	○				(目視確認のみ)	Yonekura & Yasuda 11414, TUS (2004); Yasuda 2514, KYO, TUS (2004)	Ishimine et al. (1992)	その他の総合対策 外来種、沖縄県対策 種
<i>Tithonia diversifolia</i> (Hemsl.) A.Gray *ニトベギク		◎				Kajita YK19110113			逸出 (園芸)
<i>Tridax procumbens</i> L. *トブキギク		◎				Kajita YK20101801, YK20101802			
<i>Xanthium occidentale</i> Bertol. オオオナモミ							Niro 1083, RYU (1958)		
<b>Apiaceae セリ科</b>									
<i>Cyclospermum leptophyllum</i> (Pers.) Sprague ex Britton et P.Wilson マツバゼリ		◎			+	Kajita YK20041202	Yonekura & Yasuda 11276, TUS (2004)	Ishimine et al. (1992)	

- 註 (1) 大野ら (2016) では、西表の全ての主要集落と、嶺山地区の網取集落でもヒツツモドキが確認されているが、目視による観察結果であるのでこの目録には反映させていない。
- (2) Walker (1976) 以来フィリピンの *Alocasia atropurpurea* Engl. の学名があてられ、最近疑問種として扱われていた (Murata 2016) が、Medecio and Madulid (2014) による同種の特徴とは一致しない。安溪 (1987) はヤエヤマクズイモの形態的特徴と染色体数から、本種がインドクズイモ *A. macrorrhizos* (L.) G.Don に近い、おそらく雑種起源のものであることを示唆し、生育地が昔の屋敷跡やその周辺に限られることから古い時代に導入された帰化植物と推測している。
- (3) 本種の西表島への導入について確かな資料はないが、同属のヒゲクノイガ *Cenchrus ciliaris* L. の栽培品種として1980年代以降に導入された (新城・星野 1989, 水町ほか 2011) もしくは本種を指している可能性が高い。Yasuda 2199 (TNS) はヒゲクノイガと同定されていたが、実際には本種である。本種は2000年代前半には上原や高部地区で比較的良好に見られたが、2020年には1ヶ所で確認できたのみである。
- (4) ジャイアントスターグラスの名で牧草として用いられ、2010年当時は島内の改良牧場で40%近い作付面積を占めていたという記録がある (水町ほか 2011) が、2020年の時点では少なく、2020年末末にようやく一部の牧草地周辺で逸出を確認できた。なお、初島・天野 (1994) でオニギョウギンパ *Cynodon plectostachys* Pilg. として報告された植物は本種であることがわかったため、田中・米倉 (2012) で *C. nlemfuensis* に対して新称したアフリカギョウギンパの和名を取り直し、オニギョウギンパの和名を採用する。なお、アフリカギョウギンパの和名はテイブン (アフリカシノバ) *Cynodon x magennisii* Hurcombe の片親 *Cynodon transvaalensis* Davyl. につけられている。
- (5) 新城・星野 (1989) によれば、1984年以後に栽培品種 'Kazungula' が牧草として琉大の熱帯農学研究所 (上原地区) に導入されたが、それ以前の1970年に採集された標本 (Takahashi et al. s.n., TUS) が確認されている。本種は新城・星野 (1989) で高い生産性が評価されたものの、積極的に導入されなかったようで、現在は上原地区でも確認できない。
- (6) syn. *Brachiaria decumbens* Stapf. 左の名で試験的に栽培試験に用いられた (水町ほか 2011) が、それ以前の1998年から継続して上原地区内で採集されている。本種は広義のシグナルグラス *Urochloa brizantha* (Hochst.) R.D.Webster s.l. (= *Brachiaria brizantha* (Hochst.) Stapf) に属し、種の範囲付けに関しては様々な説がある上に、現在牧草として流通している系統も雑種起源のものであることが推測されている。ここでは Sosef (2016) に従い、*U. eminii* を正名とする。
- (7) 本種は高嶺 (1952) 以来八重山諸島から普通に報告され、自然草地のものも自生と考えられる。一方、1990年代後半から2000年代前半にかけて行われた県道の拡張に伴って吹き付けられたものが現在でも県道沿いに残存しており、今回引用した標本はそこから採集されたものである。これらが海外産種子に由来するものである可能性もあるが、本報告では国内帰化とみなした。
- (8) 本種の本来の分布域は台湾と中国大陸南部からインドシナ半島であり、それ以外の地域のものには野生化したものがある (Chang et al. 2015)。西表島を含む琉球列島南部のものについては遺伝的に比較的に近い二次的に限られることを考慮すると、人間によって導入されたものとするのが妥当であろう。
- (9) この両種については、八重山諸島のものについては在来とする説もある (大川・林 2016) が、一般にはフィリピン方面から琉球王国時代に導入されたものと信じられている (仲里 2011)。西表島においては、フクギは内陸部の森林中にも広く確認されているが、多くは小木であり、開花結実に至る個体は低地の屋敷林以外ではごく少ない。
- (10) 本種は黒沢 (2001, 2016a) ではセイトカオオニシキソウと区別されていないが、Chen and Wu (2004) に従って区別して扱う。Ishimine et al. (1992) など過去の記録はどちらを指しているか不明な場合が多く、RYUに保管された初島氏がセイトカオオニシキソウと同定している標本中にも両者が混在している。オギリバナシキソウの方が西表島への導入は早いと思われるが、現在はセイトカオオニシキソウの方が普通に見られる。
- (11) Ishimine et al. (1992) の報告はホナガイヌビユが混同されている可能性が高く、西表島で過去にイヌビユとして採集された標本 (Yasuda 354, KYO など) も全てホナガイヌビユであった。ただし、風島の自由島で採集されたイヌビユの標本 (Myagi 8371, RYU) があることから、西表島にも分布するか過去に入った可能性は排除できない。
- (12) Ishimine et al. (1992) にアオグイトウ *Amaranthus retroflexus* L. が記録されているが、現在までそう同定できる標本は確認されていない。TUSのホナガイオグイトウ標本がアオグイトウと同定されていたことを考慮すると、Ishimine et al. (1992) の記録もホナガイオグイトウの誤同定であった可能性が高い。
- (13) 米倉 (2017) でネオアサガオとして掲載した西表島産の写真は、検討の結果フセンアサガオの誤りであることが判明したのでここに訂正する。
- (14) 本種は沖縄からたびたび報告されてきたが、Walker (1976) はこれらの記録はツタノハセルガオの誤同定とし、Yamazaki (1993)、米倉 (2017) もそれに従った。初島・天野 (1994) は奄美大島から本種の逸出を報告しているが、この標本は確認できない。西表島のものは美原集落 (古見地区) の牧場内の川に沿った個体が見られ、花のサイズや葉の形から判断して真のヒメコガネセルガオと同定できる。なお、米倉 (2017) でミバフサアサガオとした西表島産の写真 (2008年撮影) は、花序の形が明らかではないが、花の小ささや葉の形を考慮するとヒメコガネセルガオの可能性があり、だとすると本種は遅くとも2008年には西表島に侵入していたことになる。
- (15) 本種は最近別属 *Camonea* に移された (Simões & Staples 2017) が、本種では同様に別属 *Decalobanthus* とされたハスノハセルガオと共に暫定的に *Merremia* として扱う。本種は中南米産の基準亜種 *subsp. umbellata* と旧世界産の *subsp. orientalis* (Hallier f.) Ooststr. に分けられ、2020年末に高部で採集された標本 (Yonekura & Abe 26741, OCF) は葉形や花の大きさを考慮すると明らかに基準亜種に属する反面、2004年の採集品は葉形が旧世界産のものに近く、なおかつ開花期も異なるように見える。西表島産の個体が全て同一分類群に属するのかが今後検証される必要がある。なお、米倉 (2017) の本種の写真は上記の通り誤りの可能性があり、少なくとも Yonekura & Abe 26741 の個体とは明らかに異なる分類群に属する。
- (16) 新里ら (1993) や Ishimine et al. (1992) の記録にはダキバアレチハナガサやハママツツツとの混同が疑われる。Ishimine et al. (1992) は、さらにヤナギハナガサ *Verberna bonariensis* L. を記録しているが、おそらくこれはダキバアレチハナガサの誤同定と考えられる。
- (17) ハシノソノセンダン *サダキ decumbens* (Greenm.) Sherff を含む。
- (18) Ishimine et al. (1992) はヒメムカンヨモギ *Erigeron canadensis* L. を報告しているが、これまでそう同定できる標本は確認できていない。おそらく本種を誤ったものと考えられる。Ishimine et al. (1992) のアレチノギク *E. bonariensis* L. の記録も確認できないが、アレチノギクは毎那国島や波照間島で確実な標本が採集されているので、西表島でも実際には増化していた可能性は十分にある。

